
御所の台エリア再構築構想

令和5年6月

八峰町

国際航業株式会社

目 次

第1章 基本構想策定にあたって	1
1-1 策定の趣旨	1
1-2 対象範囲	1
1-3 基本構想の位置づけと構成	2
1-4 道の駅整備の概要	3
1-5 道の駅「はちもり」の移転及び御所の台エリア再構築の必要性	7
第2章 基礎調査	8
2-1 八峰町の現状	8
2-2 上位関連計画の整理	16
2-3 御所の台エリアの状況	18
2-4 住民および関係事業者等の意向把握	27
2-5 課題の整理	31
第3章 基本理念・将来像・基本方針	40
3-1 基本理念の設定	40
3-2 将来像の設定	41
3-3 基本方針の設定	42
第4章 事例調査	46
4-1 ニューツーリズム	46
4-2 デジタル技術やオンラインの活用	48
4-3 官民協働・地域連携	54
4-4 子どもの遊び場の整備	61
4-5 フォトジェニックスポット（写真映えスポット）	62
第5章 道の駅導入機能・実現に向けた取り組み	63
5-1 道の駅の導入機能の設定	63
5-2 既存施設等の方向性	64
5-3 必要な取り組み	68
第6章 御所の台エリア整備構想	79
6-1 道の駅導入施設の規模設定	79
6-2 整備イメージ図	87
第7章 事業推進体制（案）	88
第8章 事業スケジュール	89

第1章 基本構想策定にあたって

1-1 策定の趣旨

「道の駅はちもり」は、青森県との県境に近い国道101号沿いに位置し、1999年に県内5番目の道の駅として誕生しました。世界遺産の白神山地を水源とする「お殿水」という湧水が人気であり、売店や軽食コーナー、日本海を見渡せる展望台やくつろぎ広場等、ドライブの休憩所として利用されています。

しかし、建設から約30年経過しており、施設の老朽化が進んでいるほか、近年の社会状況の変化や多様化する利用者のニーズの変化に対応していない部分も見受けられます。

そこで、道の駅はちもりを御所の台エリアへ移転することで、御所の台エリアにある既存の観光交流施設等と連携して、地域産業振興及び地域活性化を図り、多様なニーズに対応した施設を構築していきます。

この目的を達成するために、本構想では、「既存施設と移転する道の駅を連携させた活用による地域の活性化～1年を通じたにぎわいづくり～」をテーマに、移転に向けた必要な整備の検討を行い、基本理念や基本方針、新たな道の駅に必要な機能や規模等を取りまとめた「御所の台エリア再構築構想」を策定することになりました。

1-2 対象範囲

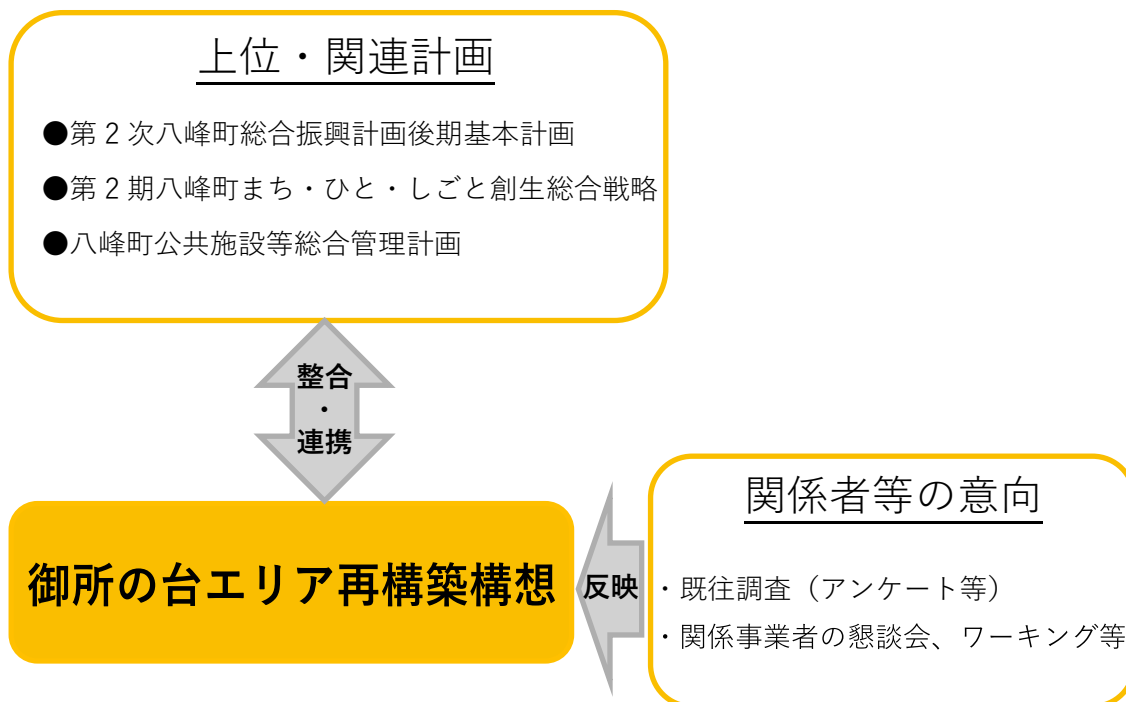
御所の台エリア再構築構想の対象範囲（以下、「本エリア」という。）は以下のとおりです。



1-3 基本構想の位置づけと構成

「御所の台エリア再構築構想」は、第2次八峰町総合振興計画をはじめとする上位・関連計画の考え方との整合を図り策定するものです。

また、本構想の策定にあたっては、昨年度までに実施したアンケート調査や関係者懇談会での意見に加え、新たに、Web アンケート調査や若手事業者ワークショップ、関係団体ヒアリング調査を行い、多くの方々から意見を伺いとりまとめました。



1-4 道の駅整備の概要

1-4-1 「道の駅」整備の背景

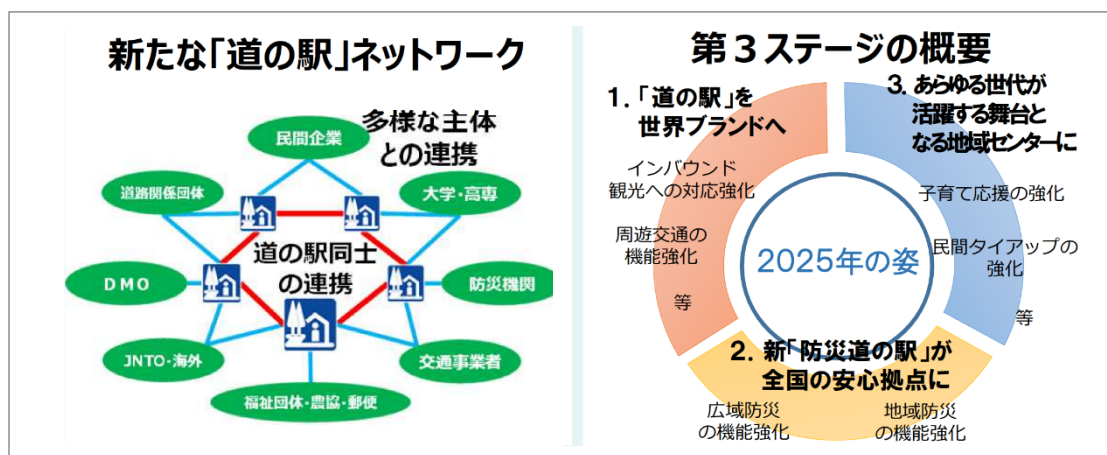
「道の駅」は、一般道にも高速道路のサービスエリア、パーキングエリアのように24時間利用できる休憩施設が道路利用者より多く求められたことから、1993年に正式登録をスタートした道路施設です。

また、全国に「道の駅」が増えていくにつれ、人々の価値観の多様化により、个性的でおもしろい空間が望まれ始めました。このことから、第2ステージとして、立地周辺地域の文化や歴史、観光名所、特産物などの地域資源を活用し、多様で個性豊かな機能を持ち「道の駅自体が目的地」とされるような形へと変化してきました。

このような背景から、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域連携機能」という3つの機能を主軸とする道路施設として、「道の駅」は今も全国に増え続けています。

現在「道の駅」の制度創設（平成5年4月）から約30年が経過し、全国で1,198駅（令和4年8月現在）が登録されています。今後、提供するサービスに対してさらなる期待が高まるとともに、防災や観光、福祉など多様な社会ニーズへの対応が求められています。

これを踏まえ、国では、2020年から「道の駅」第3ステージとして位置づけ、新たなコンセプトである『地方創生・観光を加速する拠点』及び『ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献』を実現するため、具体的な検討が進められています。

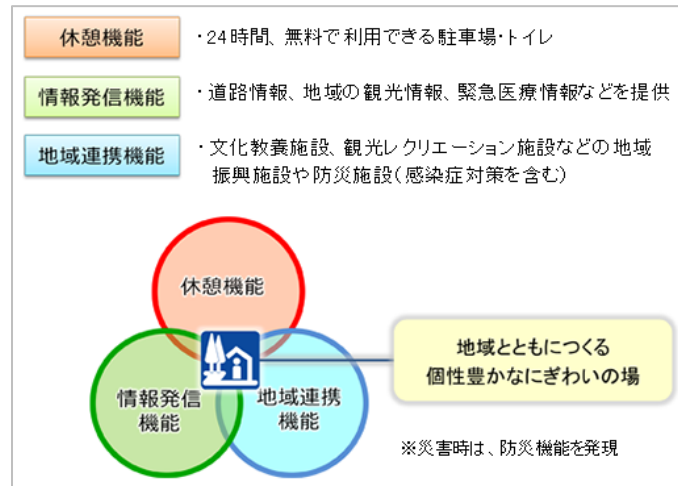


出典：第1回「道の駅」第3ステージ推進委員会・配布資料

1-4-2 「道の駅」の基本機能

「道の駅」は3つの機能を備えており、24時間無料で利用できる駐車場、トイレなどの「休憩機能」、道路情報、観光情報、緊急医療情報などの「情報発信機能」、文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設で地域と交流を図る「地域連携機能」があります。

また、道の駅ごとに地方の特色や個性を表現し、文化などの情報発信や様々なイベントを開催することで利用者が楽しめるサービスも提供しています。

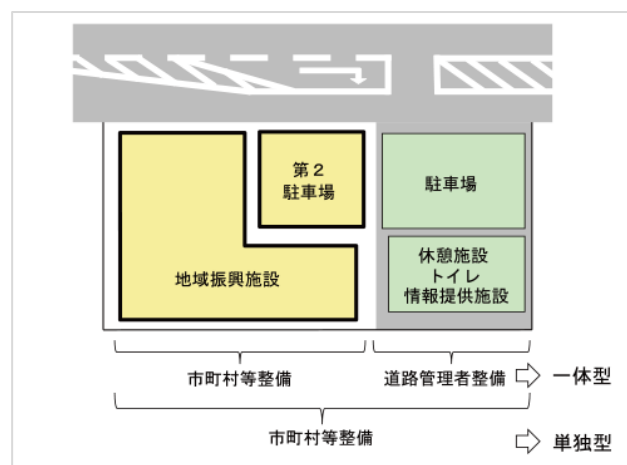


[道の駅の基本機能]

出典：国土交通省「道の駅案内」

1-4-3 「道の駅」の整備手法

「道の駅」の整備には、道路管理者と市町村等で整備する「一体型」と、市町村等が単独で整備する「単独型」の2つがあります。



[道の駅の整備主体と整備内容]

出典：国土交通省「道の駅の設置者、登録方法」

1-4-4 「防災道の駅」の概要

既存の道の駅が災害発生時に防災拠点として機能したことから、近年、道の駅の防災拠点としての機能への関心が高まっており、「国土強靱化政策大綱」（平成 25 年 12 月）にも、「道の駅」の防災拠点化が示されています。

また、国が示す「道の駅」第 3 ステージのめざす姿の 1 つに『新「防災道の駅」を全国の安心拠点に』が掲げられています。

「防災道の駅」については、都道府県が策定する広域的な防災計画や新広域道路交通計画に位置付けられた道の駅が対象となり、大臣認定がなされ、交付金等で重点支援があります。

また、「道の駅」第 3 ステージ推進委員会において、「道の駅」の防災機能強化について検討が進められており、広域的な防災拠点機能を有する道の駅を「防災道の駅」に国が認定する要件の案が示されています。

◆「防災道の駅」選定要件

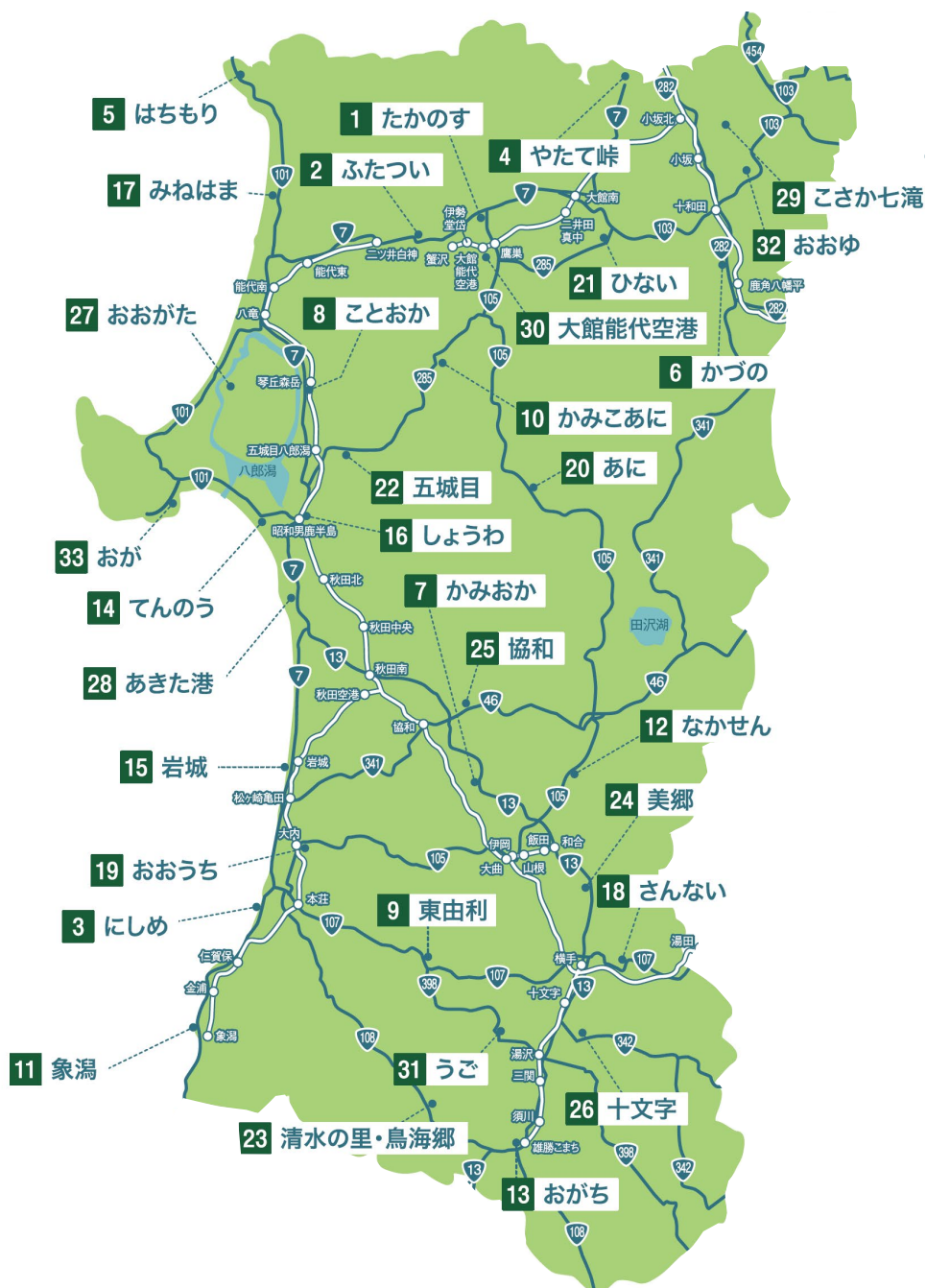
1. 都道府県が策定する広域的な防災計画（地域防災計画もしくは受援計画）及び新広域道路交通計画（国交省と都道府県で策定中）に広域的な防災拠点として位置づけられていること
※ ハザードエリアに存する場合は、適切な対応が講じられていること
2. 災害時に求められる機能に応じて、以下に示す施設、体制が整っていること
 - ① 建物の耐震化、無停電化、通信や水の確保等により、災害時においても業務実施可能な施設となっていること
 - ② 災害時の支援活動に必要なスペースとして、2500㎡以上の駐車場を備えていること
 - ③ 道の駅の設置者である市町村と道路管理者の役割分担等が定まったBCP（業務継続計画）が策定されていること
3. 2. が整っていない場合については、今後3年程度で必要な機能、施設、体制を整えるための具体的な計画があること

1-4-5 秋田県の取り組み

秋田県内の道の駅は、平成30年4月に新たに1駅が登録となり、平成5年度の登録制度の運用開始以来、33駅となっています。

また、秋田県総合計画「第2期あきた未来総合戦略」では、交流を支える交通ネットワークの充実として、「地域活性化の拠点となる道の駅の機能強化」を挙げ、「県内道の駅の質を向上し、さらに各駅の特徴を付加することで、個性が光る『秋田の道の駅』を創出する』と記載されています。

[秋田県内の道の駅整備箇所]



出典：フリーペーパー道の駅 東北「道の駅」マップ

1-5 道の駅「はちもり」の移転及び御所の台エリア再構築の必要性

近年の道の駅は単なるドライバーの休憩施設だけではなく、地方創生や観光を加速する拠点としての機能をもつ道の駅へと変化しています。

既存の道の駅「はちもり」は、平成5年から始まった道の駅の正式登録から、2年後の第8回（平成7年）に登録された先駆的な道の駅であり、湧き水として有名な「お殿水」をPRポイントにおき、道の駅を管理運営してきた経緯がありますが、時代の流れとともに、施設の老朽化や現在の時代のニーズに対応しきれていない現状がみられます。

今後は、近年の道の駅の機能の変化などを踏まえ、「休憩機能」や「情報発信機能」に加え、来訪者が訪れたいくなる「地域連携機能」が充実した道の駅へのリニューアル等が望まれます。

一方、御所の台エリアは、宿泊機能、産直機能、自然体験機能をもつハタハタ館や産直ぶりこ、あきた白神体験センターなどが集約しており、町民はもとより、町外からの来訪者等も多いエリアです。

本エリアに新たな道の駅「はちもり」を移転することで、既存施設との連携が可能となり、既存施設のもつ各機能を有効活用することで、財政負担を抑えながら、道の駅としての「地域連携機能」の向上を図ることが可能となります。

また、本エリア内においても既存施設の連携不足や情報発信不足等の課題があるため、道の駅「はちもり」の移転を契機に、本エリア全体を再構築することで、相乗効果によるエリア全体の魅力の向上が期待できます。



[道の駅はちもりの様子]

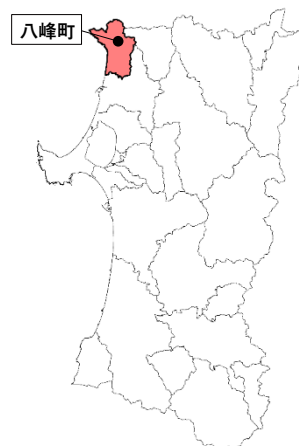
第2章 基礎調査

2-1 八峰町の現状

2-1-1 位置・地勢

本町は、秋田県の北西部に位置し、東は藤里町、南は能代市、西は日本海、北は青森県に接しており、秋田県と青森県の結節点となっています。

東西が約19km、南北が約24kmで、面積は234.14km²となっています。面積の80%が森林で占められており、農地は10%程度で、その多くが峰浜地区にあります。



[位置図]

2-1-2 自然

本町の東側には広大な森林が広がっており、「秋田白神県立自然公園」に指定されているエリアがあります。また、起伏に富んだ八森地区の海岸も「八森岩館県立自然公園」に指定されています。このように、本町は、2つの県立自然公園を有する自然豊かな地域です。

また、気候は四季の移り変わりが明瞭で、年間の平均気温は10℃前後です。冬は、低温で日本海側特有の北西の強い季節風が吹き、積雪は平野部で10～50cm、山間部では100cm以上になります。

2-1-3 歴史

本町は、平成18年に漁業が有名な八森町と農林業が盛んな峰浜村が合併し、誕生しました。

以下、御所の台エリアを中心に、八峰町誕生前から現在までの主なできごとをとりまとめました。

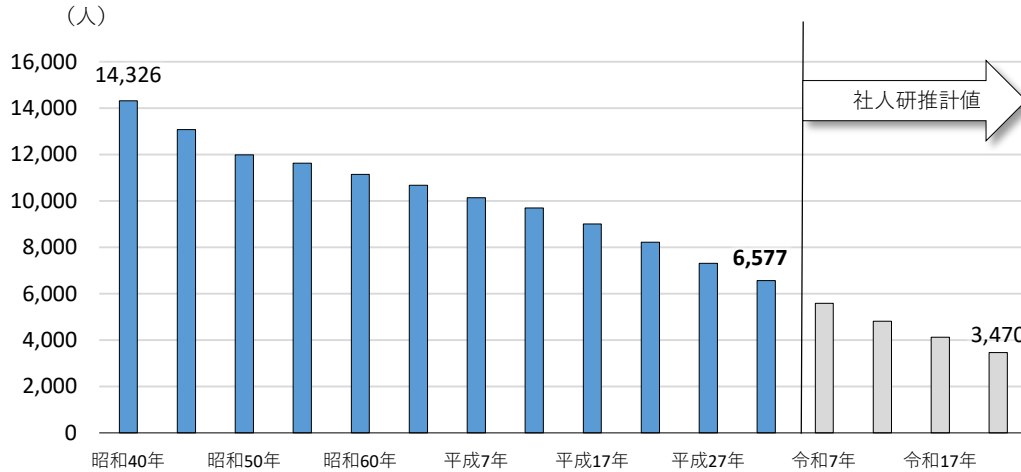
[八峰町の年表]

年	できごと
昭和56年(1981年)	山村広場開設。
平成元年(1989年)	野球場開設。
平成5年(1993年)	ハタハタ館オープン。
平成8年(1996年)	オートキャンプ場開設。
平成9年(1997年)	あきた白神駅開業。
平成18年(2006年)	八森町と峰浜村が合併し、八峰町が誕生。 産直「ぶりこ」オープン。
平成19年(2007年)	ハタハタ館リニューアルオープン。 あきた白神体験センターオープン。
平成21年(2009年)	八峰町新庁舎が完成。
平成24年(2012年)	ポンポコ山公園リニューアルオープン。 八峰白神ジオパークが日本ジオパークに認定される。「日本一小さいジオパーク」が誕生。
平成29年(2017年)	子育て支援センター「あいあい」がオープン。

2-1-4 人口

本町の総人口は、令和2年には6,577人で昭和40年の14,326人から減少傾向が続いています。

また、「国立社会保障・人口問題研究所」（以下、「社人研」という。）の推計人口では、令和22年の総人口は、3,470人と推計されています。



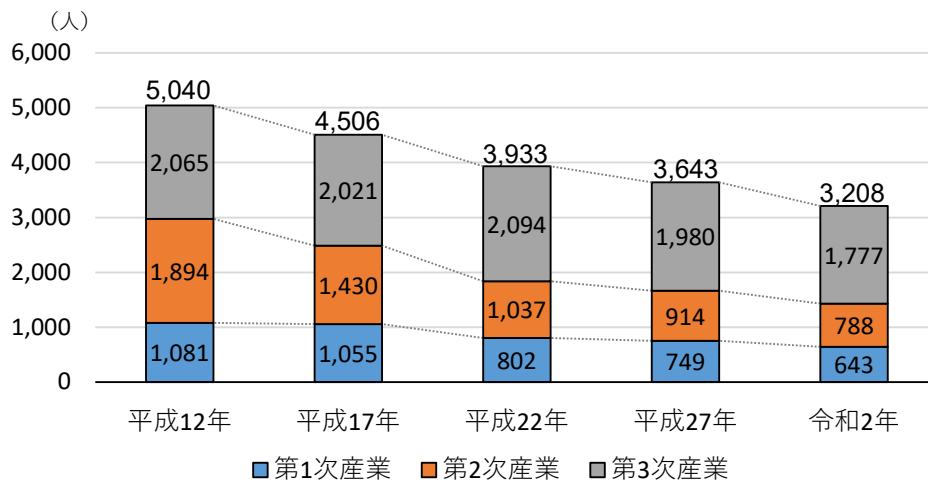
[人口推移]

出典：総務省「国勢調査」（昭和40年から令和2年まで）、昭和40年から平成17年までは合併前の旧2町村合計値。令和7年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」の推計人口（平成30年推計）

2-1-5 産業

本町における令和2年の産業就業人口は、3,208人で、年々減少傾向となっています。

第1～3次産業別にみると、第1次産業が643人（20%）、第2次産業が788人（24.6%）、第3次産業が1,777人（55.4%）となっており、第3次産業が中心となっています。



[産業就業人口]

出典：国勢調査

(1) 農業

令和2年の農業産出額は、187千万円であり、大半を米の産出額が占めています。

[品目別農業産出額の推移]

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	
農業産出額	148	166	174	183	195	187	
耕種	小計	147	165	173	182	195	187
	米	108	120	129	135	147	141
	麦類	-	-	-	-	-	-
	雑穀	2	3	2	2	5	2
	豆類	3	4	2	2	5	3
	いも類	1	1	1	1	1	1
	野菜	28	31	32	37	30	34
	果実	5	6	5	5	6	6
	花き	x	x	x	x	0	0
	工芸農作物	-	-	-	-	0	0
	その他作物	x	x	x	x	x	x
	畜産	小計	1	1	1	1	0
肉用牛		1	1	1	1	0	0
乳用牛		0	0	0	0	-	-
生乳		x	x	x	x	-	-
豚		x	x	x	x	-	-
鶏		0	0	0	0	-	-
鶏卵		x	x	x	x	-	-
その他畜産物		x	x	x	x	-	-
加工農産物	-	-	-	-	-	-	

出典：農林業センサス

また、農産物としては、稲作や野菜のほか、菌床しいたけがあり、東北有数の産地となっています。また、砂丘地を利用した峰浜梨も有名です。



[菌床しいたけ]

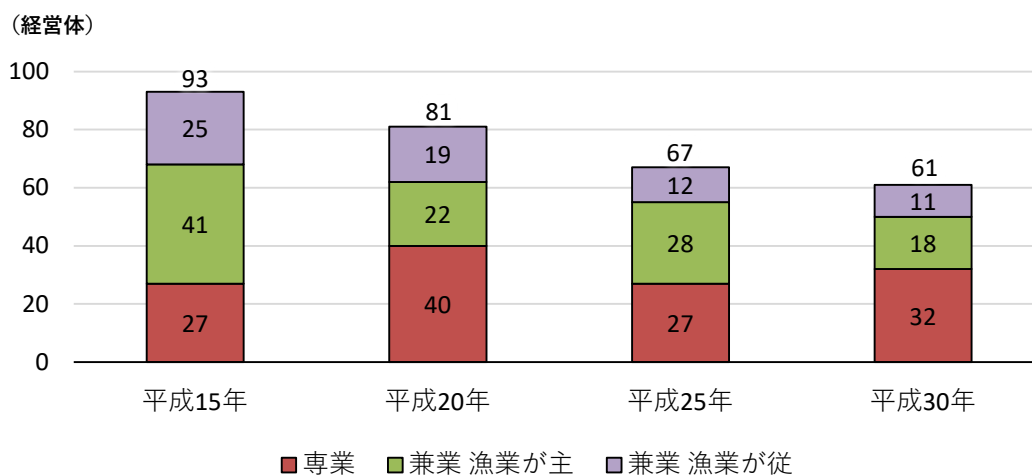


[峰浜梨]

(2) 漁業

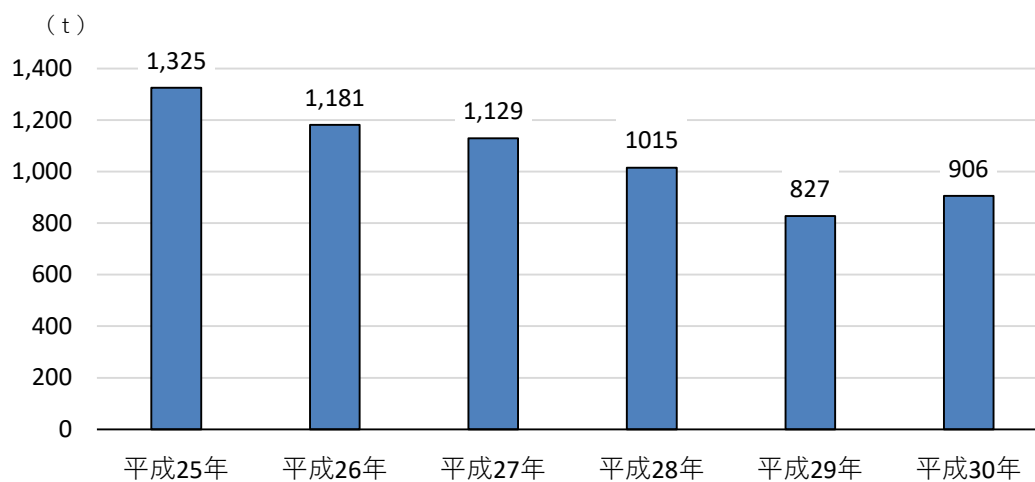
平成30年の漁業経営体数は、61経営体であり、年々減少しています。

また、漁業生産量は年々減少傾向となっています。



[漁業経営体数]

出典：漁業センサス



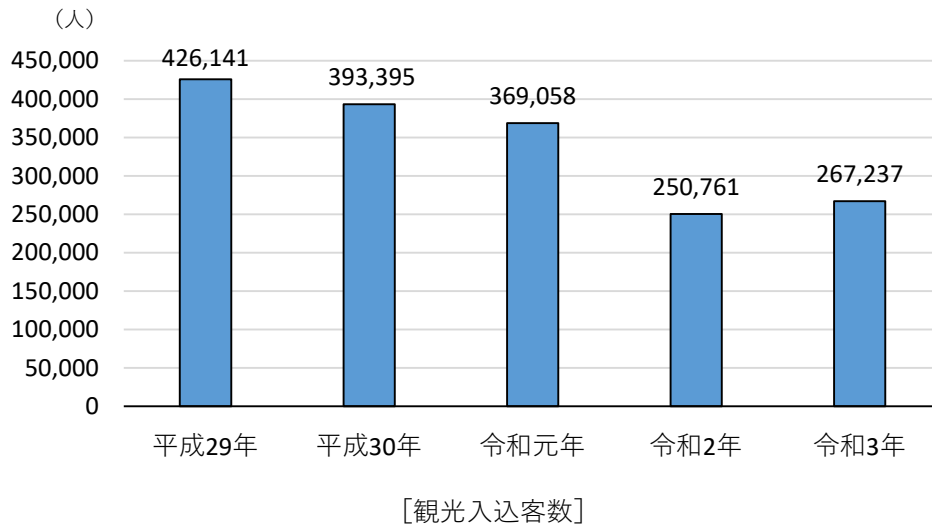
[漁業生産量]

出典：海面漁業生産統計調査

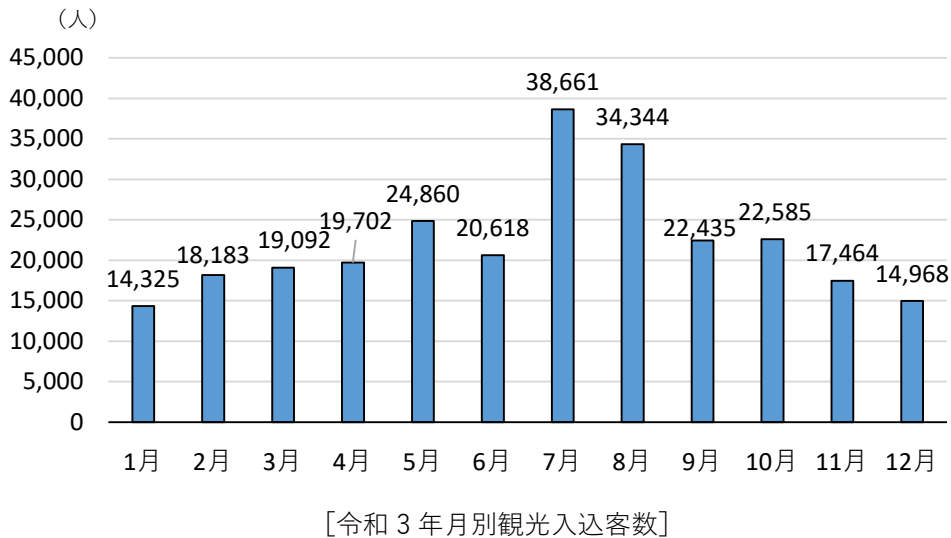
2-1-6 観光

本町の令和3年度の観光入込客数は、267,237人となっています。新型コロナウイルスの影響で令和2年度に減少したものの、令和3年度から増加傾向となっています。

しかし、月別の観光入込客数では、7、8月の夏季以外は低迷しており、特に冬季は少ない状況となっています。



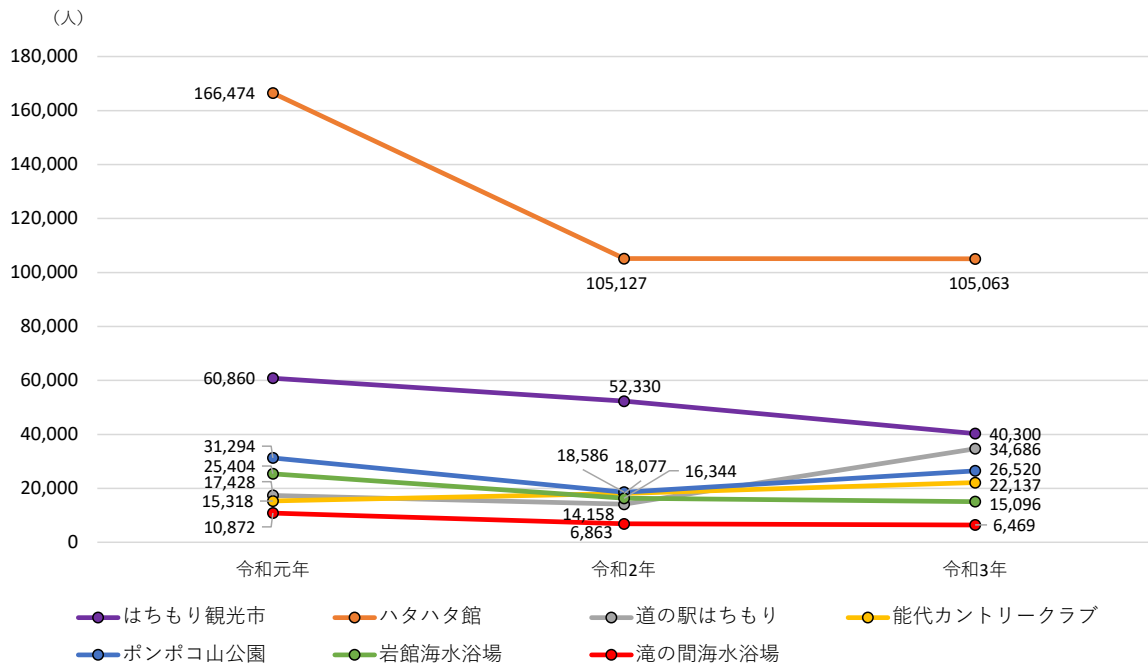
出典：秋田県観光統計



出典：秋田県観光統計

また、本町の観光資源として、世界遺産の白神山地を中心に、「自然体験施設」「直売場」「宿泊地」等が点在しています。特に、「ハタハタ館」は観光入込客数が最も多く、宿泊者だけでなく日帰りで訪れる方も多く見受けられます。

さらに、集客イベントとして、「八峰町さくらまつり」や「白瀑神社みこしの滝浴び」、「石川駒踊り」、「雄島花火大会」等と地域を盛り上げるためのイベントが毎年開催されています。



[観光施設別入込客数]

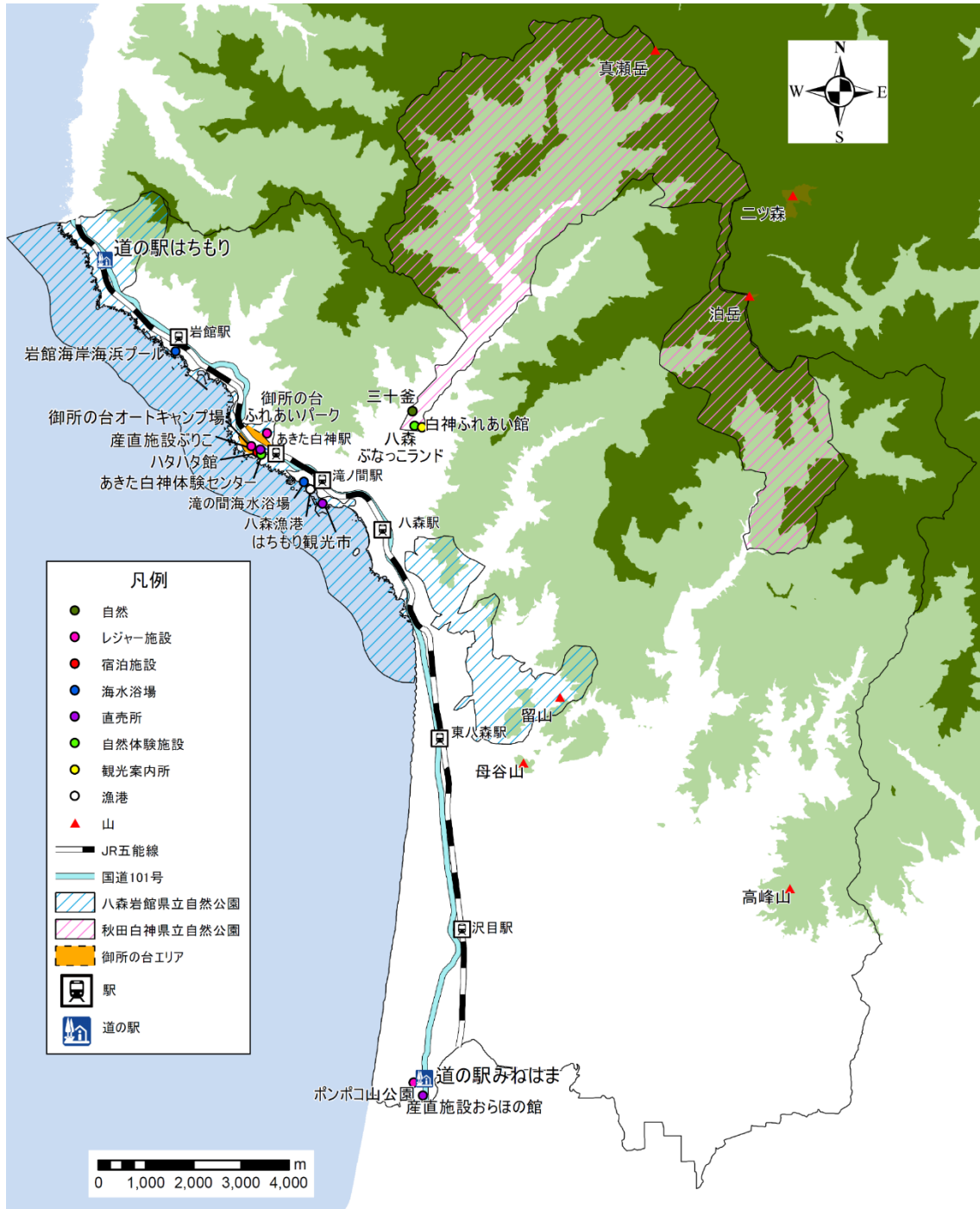
出典：秋田県観光統計



2-1-7 主な施設の立地状況

本構想エリア内には、宿泊施設、自然体験施設、産直市、オートキャンプ場、遊び場等が立地しています。

近隣には、白神山地のインフォメーションセンターである「八森ぶなっこランド」や「白神ふれあい館」、自然を体感することができる「三十釜」や「留山」などが立地しています。



[主要施設の立地条件]

レジャー



道の駅



産直施設



漁港



[本町の主な観光資源]

2-2 上位関連計画の整理

2-2-1 第2次八峰町総合振興計画 後期基本計画

発行年月	令和3年3月
計画期間	令和3年度～令和7年度（5年間）
基本目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 豊かな自然と共生するまちづくり 2 快適で安全な暮らしを支えるまちづくり 3 未来につながる活力ある産業づくり 4 安心して健やかに暮らせるやすらぎのまちづくり 5 彩り豊かな文化とふるさとをささえる人づくり 6 町民とつくるパートナーシップのまちづくり
本事業に関連する主な施策	<p>■観光と物産の振興</p> <p>世界自然遺産白神山地や周辺地域の保護保全を図る一方、恵まれた自然環境の維持と観光資源の保全に取り組みます。</p> <p>また、能代山本管内の広域観光連携を進める地域連携DMO組織「一般社団法人あきた白神ツーリズム」を中心に、町内団体や県の各種機関を始め、環白神エコツーリズム推進協議会の構成自治体である秋田・青森両県の白神山地周辺自治体等とも連携し、<u>訪日外国人観光客の誘致を含めた広域観光の振興に努めます。</u></p>

2-2-2 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略

発行年月	令和2年3月
計画期間	令和2年度～令和6年度（5年間）
基本目標	<ol style="list-style-type: none"> (1)仕事づくりのための産業振興 (2)定住・移住対策 (3)少子化対策 (4)人口減少社会への対応
本事業に関連する主な施策	<p>■地域資源を活用した経済の活性化</p> <p>人口減少が著しく地域の活力が衰退しつつある本町において、地域連携DMO等と協力し、世界自然遺産「白神山地」や日本海などの豊かな自然を堪能できる体験メニュー等の開発を広域的に進めることで、<u>国内外からの誘客を促進し、宿泊を中心とした地域経済の活性化を図る。</u></p> <p>・地域連携DMO推進事業</p>

2-2-3 八峰町公共施設等総合管理計画

発行年月	平成 29 年 3 月策定 令和 3 年 6 月改訂
計画期間	20 年間
本事業に関連する主な施策	<p>■スポーツ・レクリエーション系施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数や老朽化・耐震化の状況、地区住民や関係団体と協議をしながら<u>改修や配置見直しの取組み</u>を進めます。<u>老朽化した施設の更新などにあたっては、集約化を進めることや他の機能の施設との複合化を検討します。</u> ・<u>民間活力の導入と併せて、効率的な施設の維持管理・運営を図り、継続的な利活用を推進します。</u>

2-2-4 八峰町公共施設等総合管理計画 個別施設計画

発行年月	平成 29 年 3 月策定 令和 3 年 6 月改訂
関連施設の個別方針	<ul style="list-style-type: none"> ●八森いさびり温泉ハタハタ館 →町の宿泊等の拠点施設であり、<u>今後も必要に応じ改修する。</u> ●オートキャンプ場 →利用者も多く、<u>必要に応じ改修する。</u> ●産直ぶりこ →必要に応じて<u>改修する。</u> ●野球場 →<u>当面の間、小規模修繕を行いながら、施設を利用していくが、将来的には、除却の方向で検討する。</u> ●緑地等管理中央センター →<u>必要に応じて改修する。</u>

2-3 御所の台エリアの状況

2-3-2 土地利用状況

(1) 県立自然公園

本町は、「秋田白神県立自然公園」と「八森岩館県立自然公園」の2つの自然公園を有しています。

本構想エリアは、「八森岩館県立自然公園」内に位置しており、国道101号線を境にハタハタ館側は「普通地域」、あきた白神駅側は「第3種特別区域」に指定されています。

特別地域での工作物の建設、木竹の伐採等の行為（秋田県自然公園条例第十五条第一項に掲げる行為）については、知事による許可が必要です。

(2) 津波ハザードマップ、土砂・ため池ハザードマップ

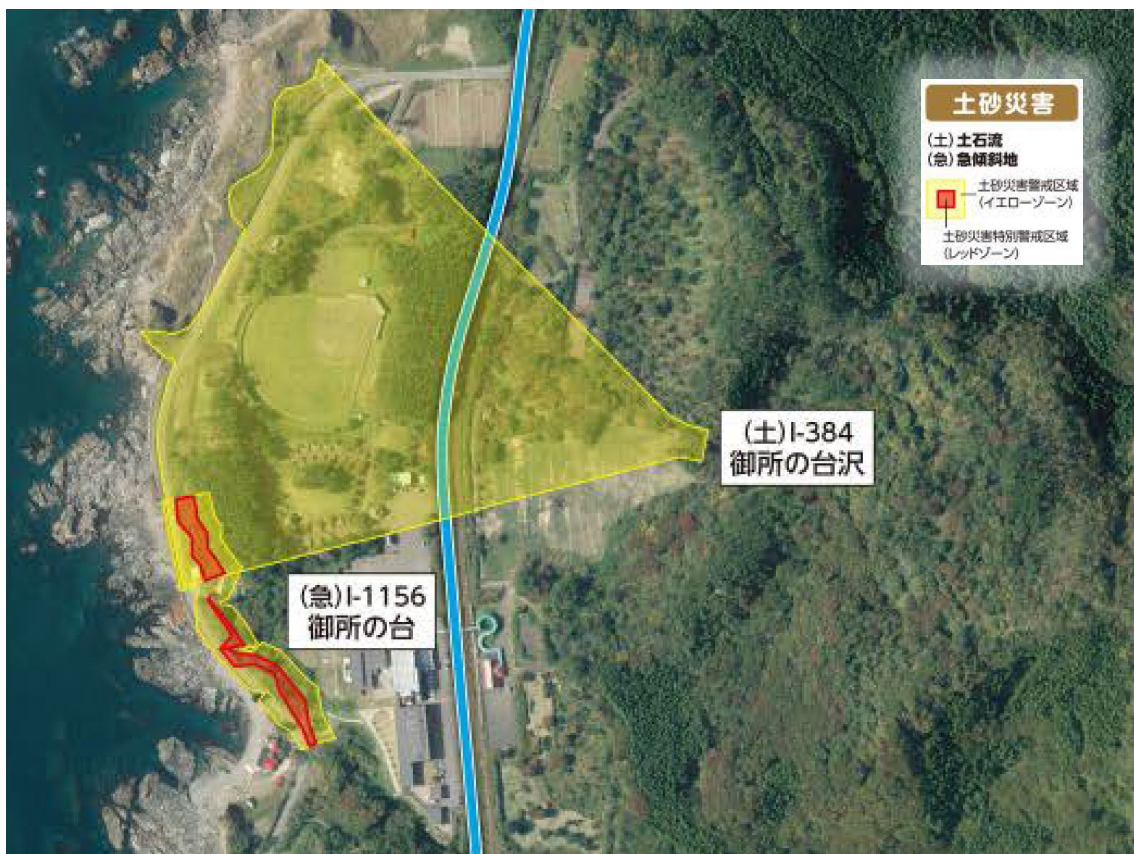
本町では、令和3年3月に秋田県沖で想定される地震をもとに「防災ハザードマップ」が作成されました。

本構想エリアについては、ハタハタ館駐車場が「避難場所」、「あきた白神体験センター」が「避難所」として指定されています。

また、土砂災害においては、エリアの一部が土砂災害警戒区域に指定されています。土砂災害警戒区域では、法令による建築物への制限はありませんが、建築物の建設については、安全対策が必要となります。



[県立自然公園]



[土砂・ため池ハザードマップ]

2-3-2 交通状況

本町の幹線道路は、南北に縦断する国道 101 号を軸に県道や町道、農道等が近隣市町や集落間を接続しています。

公共交通においては、JR 五能線や、バス路線では秋北バスが運行する能代・峰浜線と本町が運行する八峰町巡回バスがあります。このほか、町内を運行区域として本町が運行する八峰町デマンド型乗合有償運送があります。

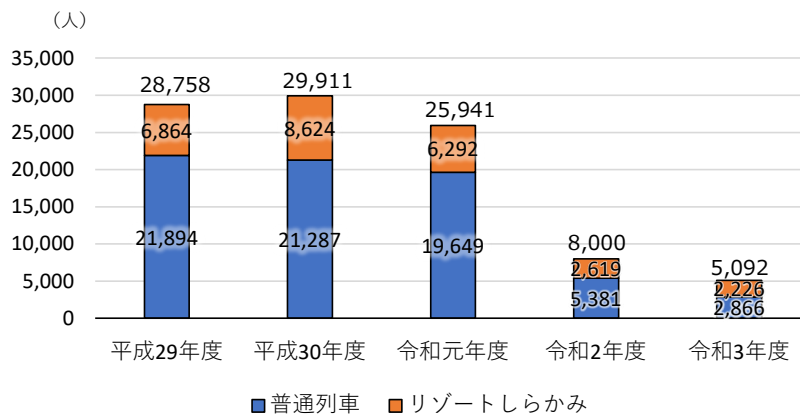
また、JR 五能線は、「リゾートしらかみ」が運行され、観光路線として人気となっていますが、生活路線としては、運行本数が少なく、利用者が少ない傾向にあります。令和 4 年 8 月の大雨では、その影響により深浦～鱒ヶ沢駅間は運休となっており、臨時バスが運行していました。(令和 4 年 12 月 23 日より全線開通)

本構想エリアは、前面道路に国道 101 号が通っているほか、JR 五能線の「あきた白神駅」が設置されています。

[交通量]

路線名	24時間自動車類交通量		
	(上下合計)		
	小型車 (台)	大型車 (台)	合計 (台)
国道101号	930	143	1073

出典：平成 27 年度交通センサス



[あきた白神駅利用者数]

出典：町提供資料





[交通状況]

2-3-4 御所の台エリアの概要

(1) 施設概要

本構想エリアの施設概要を以下に示します。

項目	ハタハタ館	あきた白神体験センター	産直ぶりこ
外観写真			
建築年月	平成5年建設、平成19年改修	平成19年	平成17年
築年数	29年	15年	17年
延床面積	3,360.92㎡	2,560.71㎡	279.06㎡
構造	鉄筋コンクリート造 (一部、木造) 3階建て	鉄筋コンクリート造 (一部、木造) 2階建て	木造 平屋建て
所有	町	県	町
管理	ハタハタの里観光事業株式会社	指定管理者：町	八峰町農林水産物直売場「ぶりこ」組合
施設内容	宿泊施設、温泉施設、レストラン、売店、会議室	宿泊施設、多目的ホール、研修室	産直施設、軽食施設
営業時間	9:00～21:00	8:30～17:15	9:00～18:00
休館日	月1,2回	年末年始（12月29日～1月3日）	年末年始（12月29日～1月3日）

項目	オートキャンプ場	緑地等管理中央センター	御所の台ふれあいパーク野球場
外観写真			
建築年月	平成8年	平成5年	平成元年
築年数	26年	29年	33年
延床面積	19,000㎡	299㎡	25,266㎡
構造	木造	鉄骨造、鉄筋コンクリート造 平屋建て	コンクリートブロック
所有	町	町	町
管理	NPO法人八峰町観光協会	ハタハタの里観光事業株式会社	町
施設内容	キャンプ場	管理人室、体験調理室、 切符販売	野球場
営業時間	4月中旬～10月中旬	-	-
休館日	上記期間以外	-	-

(2) 施設利用者状況

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により利用者数が落ち込んだものの、その後増加傾向となり、一定数の利用者が見られます。

特に、オートキャンプ場は、コロナ禍により密を避けることができるアウトドア需要が高まり、利用者がコロナ前よりも増加しました。

しかし、人気観光資源であるハタハタ館は、令和4年8月の大雨の影響でJR五能線を走る「リゾートしらかみ」が運休となる自然的な影響も受け、減少傾向が続いている状況です。

[各施設の利用者状況]

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
ハタハタ館	98,488	95,403 ↓	95,790 ↑	74,893 ↓	73,153 ↓
あきた白神体験センター	9,500	8,533 ↓	7,290 ↓	3,361 ↓	3,812 ↑
オートキャンプ場	3,235	2,273 ↓	4,228 ↑	3,164 ↓	5,592 ↑
産直ぶりこ	62,855	59,221 ↓	56,142 ↓	38,647 ↓	34,639 ↓
ふれあいパーク	5,281	4,991 ↓	4,991 ↑	3,736 ↓	4,026 ↑
緑地等管理中央センター	2,907	2,637 ↓	2,331 ↓	1,534 ↓	2,168 ↑

2-3-5 道の駅「はちもり（お殿水）」の概要

(1) 施設概要

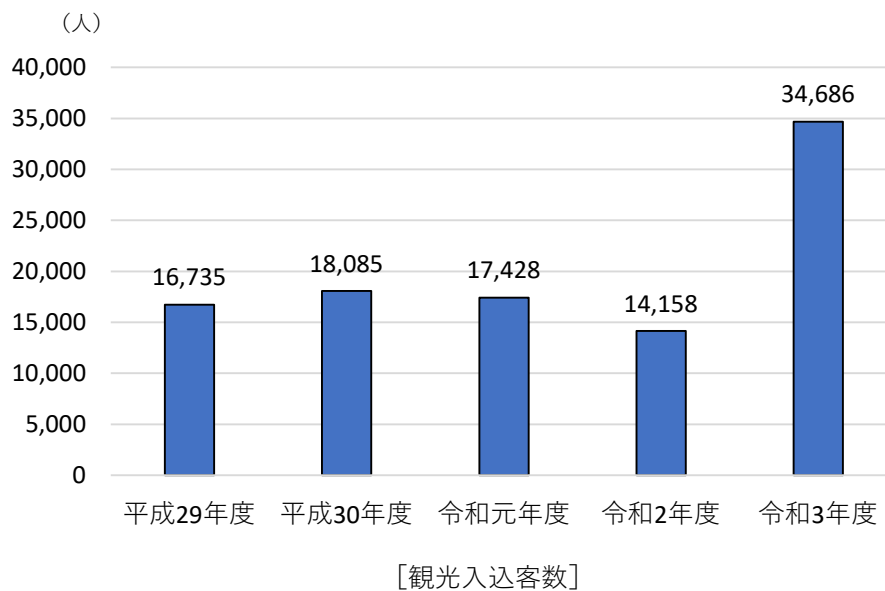
既存の道の駅「はちもり」の施設概要を以下に示します。

項目	駐車場	休憩所	トイレ
外観写真			
建築年月	平成6年	平成6年	平成6年
築年数	28年	28年	28年
延床面積	1460㎡	101.2㎡	96.2㎡
構造	-	木造 平屋建て	木造 平屋建て
設置者	県	町	県
管理者	町	町	町
運営者	地産八森大黒屋合同会社	地産八森大黒屋合同会社	地産八森大黒屋合同会社
施設内容	大型車：5台 小型車：30台	交通・観光情報提供、特産品の展示販売、「お殿水」を利用した喫茶・軽食コーナー	男子トイレ、女子トイレ（ベビーベッド付）、多目的トイレ
営業時間	24時間利用可能	9:00~18:00 (冬期~17:00)	24時間利用可能
休館日	-	年末年始（12月31日~1月2日）	-

項目	水飲場	展望台	くつろぎ広場
外観写真			
建築年月	平成6年	平成6年	平成6年
築年数	28年	28年	28年
延床面積	7㎡	340㎡	345㎡
構造	-	-	-
設置者	町	県	県
管理者	町	町	町
運営者	地産八森大黒屋合同会社	地産八森大黒屋合同会社	地産八森大黒屋合同会社
施設内容	白神山地より湧き出る清水「お殿水」	ベンチ、机	ベンチ、机、東屋
営業時間	24時間利用可能	24時間利用可能	24時間利用可能
休館日	-	-	-

(2) 観光入込客数状況

令和3年度は、コロナ禍でアウトドア需要が高まり、例年に比べ観光入込客数が倍増しました。



出典：秋田県観光統計

2-4 住民および関係事業者等の意向把握

2-4-1 アンケート調査による意見

【調査概要】

目的：たくさんの方々から、道の駅「はちもり」や御所の台エリアに対するご意見・ご要望等を伺うとともに、八峰町の冬の魅力について意見を収集し、御所の台エリア再構築の参考とすることを目的に実施しました。

調査期間：令和4年12月28日（水）～令和5年1月9日（月）

配布回収：Google フォームによる Web アンケート

対象者：県内外の方々

回収数：58人

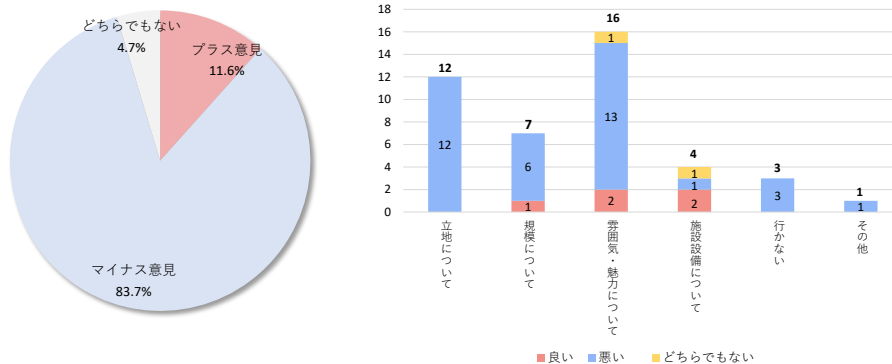
ここでは、道の駅「はちもり」に対する意見と御所の台エリアの再構築に向けて必要な施設について概要を以下にとりまとめました。

なお、詳細については、資料編「アンケート調査結果」を参照。

①道の駅「はちもり」に対する意見

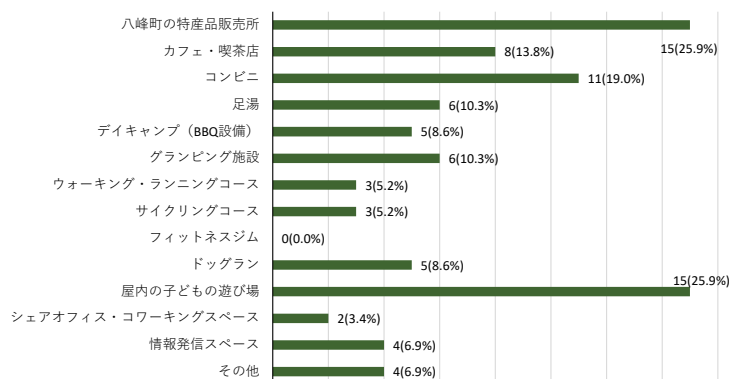
道の駅「はちもり」に対して、マイナスな意見が8割。

- ・特に、「雰囲気について」「立地について」のマイナスな意見が多いです。
- ・「雰囲気について」は、暗いイメージや魅力がないといった意見が多く、「立地について」は、遠いや利用しづらいといった意見が多いです。



②御所の台エリア再構築に向けて必要な施設等

「八峰町の特産品販売所」「屋内の子どもの遊び場」が最も多く、次いで、「コンビニ」が多いです。



2-4-2 ワークショップによる意見

【開催概要】

開催趣旨：御所の台エリアを含めた町全体の活性化につなげるために、御所の台エリア再構築構想に向けたグループワークを開催しました。

開催日時：令和5年1月16日（月）18：00～19：30

場所：あきた白神体験センター（2階 研修室1）

参加人数：計18名（町内の若手事業者及び関係団体）

ワークショップでは、『テーマ1：「冬の八峰町らしさ」はどういうものですか？』
『テーマ2：八峰町の良さ、冬の良さを伝えるためにどんなことをしたいですか？』
について話し合っていました。

各テーマの主な意見を以下にとりまとめました。

なお、詳細については、資料編「グループワーク」を参照。

テーマ1：「冬の八峰町らしさ」はどういうものですか？

- ・「自然」・・・強い風、荒波、雪が少ない等
- ・「食」・・・新鮮な魚介類（ハタハタ、タラ等）、鍋等
- ・「観光」・・・温泉、ハタハタ館露天風呂のオーシャンビュー等
- ・「その他」・・・薪ストーブ、暖炉等

テーマ2：八峰町の良さ、冬の良さを伝えるためにどんなことをしたいですか？

- ・ハード面：野球場をフリーサイトキャンプ場として整備、グランピング施設の整備、展望台の設置、ドッグランの整備等
- ・ソフト面：ハタハタ寿司づくりプラン、風体験等



2-4-3 関係団体ヒアリングによる意見

御所の台エリア周辺の事業者に対してヒアリングを実施し、施設の現状や課題について意見収集したものを以下に示します。

なお、詳細は資料編「関係団体ヒアリング」参照。

No	施設名称	現状・問題点	課題
1	エリア全体やサービス等	○ エリア内をどう楽しめばいいのかわかりにくい状況。	◆ 目玉商品（スポット）や PR の検討
		○ 看板やメニューなどがインバウンド対応していない。	◆ 看板、メニューなどの言語対応 ◆ ユニバーサルデザインやピクトグラムの活用
		○ サービス面で連携不足	◆ 各施設の連携強化
		○ 高齢者の利用が多い	◆ バリアフリー対応
		○ 観光に係る人材不足	◆ 人材確保 ◆ DX の活用
2	産直ぶりこ	○ 組合員の減少、出品数の減少、客足の減少、売り上げの減少と全体的に減少傾向となっている。	◆ ハタハタ館内の売店での委託販売（現在検討中）
		○ 後継者不足や悪天候により、収穫量が減少。	◆ 担い手の確保 ◆ ハタハタの再ブランド化
		○ 高齢者が多いため、SNSでの情報発信方法がわからない。	◆ 町役場から SNS の発信が可能なため、町役場に相談しながら実施していく。
		○ ハタハタ館への移動がしにくい	◆ ハタハタ館への動線検討
		○ 入口すぐにレジがあるため、販売員の目が気になるといった声もあり、利用者が買い物しにくい構造となっている。	◆ 施設内のレイアウト検討
3	八森いさりび温泉ハタハタ館	○ 宿泊率が令和3年よりも減少している。	◆ お得な宿泊プランの検討 ◆ PR 方法の検討
		○ 部屋の種類が少ないため、団体観光客の受け入れができない。	◆ 秋田県及びあきた白神体験センターと協議し、受け入れ体制を検討する必要がある。
		○ 買い物だけではなく、ご飯も食べてもらえるように誘導する必要がある。	◆ PR 方法の検討

No	施設名称	現状・問題点	課題
4	あきた白神体験センター	○ 施設内は館内履き移動で、ハタハタ館側は土足移動のため、ハタハタ館への往来がしづらい。	◆ ハタハタ館と協議し、検討する必要がある。
		○ 宿泊者のハタハタ館の温泉利用時間が日帰り観光客と同様、21時までとなっている。	◆ 宿泊者の入浴時間検討
		○ 11月~2月の冬期間の学校団体利用は、天候が予想しにくく、安全面の確保も難しいため、利用者が極端に少ない。	◆ 天候の影響を受けない安全性を確保した体験メニュー等の検討
		○ ハタハタ館宿泊者や白神山地訪問者が間違えて訪問してくることが多い。 ○ 海まで降りるルートがわかりづらい。	◆ 案内板の設置 ◆ 白神山地案内所の一体化
		○ 一部和式トイレがあるなど、利用しにくい設備がある。	◆ 設備の更新を検討
5	オートキャンプ場	○ 支払い方法や予約方法がデジタル化できていない。	◆ 電子決済対応 ◆ Web予約対応
6	その他	○ 冬キャンプを実施する場合、風対策や冬季でも水道、トイレが使用できるようにする必要がある。	◆ 冬季の水道、トイレの改善 ◆ 風対策

2-5 課題の整理

2-5-1 御所の台エリアの現状と課題

現地調査等を踏まえ、御所の台エリアの既存施設の連携と活性化に向けた課題について、以下に整理します。

(1) 施設の老朽化に関する現状と課題

現状・問題点

- 自由通路スロープ屋根の一部が剥がれています。
- 自由通路の舗装面が地盤沈下により亀裂・段差ができています。
- 緑地等管理中央センターの屋根の境目から雨漏りが発生しています。
- 駐車場の所々に凹みがあり、雨が降った際に水たまりが発生します。

課題

- ◆ 老朽化が見られる施設については適切な対策を講じるとともに、計画的な修繕による施設の長寿命化を図る必要があります。
- ◆ 自由通路のスロープについては、利用者の利便性やバリアフリー化も踏まえ、スロープの撤去及びエレベーターの設置を検討する必要があります。



[スロープの地盤沈下]



[駐車場の水たまり]



[自由通路の屋根のはがれ]

(2) 機能連携・情報発信に関する現状と課題

現状・問題点

- 施設毎に管理者が異なり、総合案内等の情報の一元化が図られておらず、施設間の連携が十分に図られていません。
- 総合案内板が設置されておらず、施設配置や施設内容が分かりづらいです。
- 本町の観光情報や地域情報を発信する場が少ないです。
- 高齢化が進む事業団体の中には、インターネットや SNS 等が使いこなせていないケースがあります。

課題

- ◆ 御所の台エリアにある施設配置やサービス内容が把握できる総合案内板を設置するとともに、御所の台エリア全体として一体感のあるデザインを用いた案内サインや誘導サインを検討する必要があります。
- ◆ 「道の駅」の情報発信機能として、本町の観光情報等魅力をはじめ、伝統や文化等の情報、市民の生活情報、御所の台エリアの各施設の案内やイベント情報がまとめて発信できる場の提供が必要です。
- ◆ 情報発信については、現地での掲示板等による情報発信だけでなく、SNS や動画投稿サイト、写真共有サイト等の各種ソーシャルメディアの普及を踏まえ、現地の方々や利用者の生の声の情報を発信し、魅力を PR する手法を検討する必要があります。
- ◆ 高齢者の方でも気軽に SNS 等で情報発信ができるように、スマートフォンや SNS 活用講習などのサポートが必要です。



[既存の案内サイン]



[既存の案内サイン]



[既存の案内掲示板]



[既存の情報コーナー]

(3) 運営・維持管理に関する現状と課題

現状・問題点

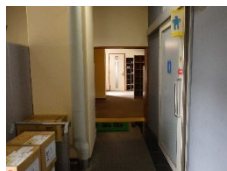
- ハタハタ館の1階トイレは誰もが利用できるため、温泉施設を無断で利用する人がいます。
- 線路沿い及び遊具広場の植栽管理が行き届いていません。
- オートキャンプ場や野球場の芝生の維持管理が負担になっています。
- ふれあいパークの芝生広場は、イベント以外での利用者が少なく、特に冬場の利用者は最も少ない状況です。
- 野球場は老朽化しているほか、利用者数が減少傾向となっています。
- オートキャンプ場については、11月~3月が休業期間となっているため、冬期間は利用されていない状況。また、支払い方法が現金のみや予約方法も電話対応のみとなっています。
(冬キャンプを実施する場合、強風と水道の使用が不可能といった問題がある。)
- トイレ休憩の目的でハタハタ館を利用している団体客が多い状況です。
- 産直ぶりこについては、組合員の減少、出品数の減少により、運営が厳しい状況です。

課題

- ◆ ハタハタ館の日帰り温泉客、宿泊客、あきた白神体験センター利用者、トイレ利用のみを目的とする人との動線を踏まえた、セキュリティの強化が必要です。
- ◆ 植栽については、利用者の視認性確保や維持管理負担の軽減を踏まえ、適切な植栽配置が必要です。
- ◆ オートキャンプ場、野球場については、ランニングコストを配慮した施設整備を検討する必要があります。
- ◆ ふれあいパークの芝生広場は、冬場の利用方法について検討する必要があります。
- ◆ 野球場については、今後の利活用について検討する必要があります。
- ◆ オートキャンプ場については、1年を通して利用できるように、冬季の利用方法や対策（風対策等）について検討する必要があります。また、支払い方法のキャッシュレス対応や予約方法のWeb対応等、デジタル化にしていく必要があります。
- ◆ 観光バスの団体客がハタハタ館に立ち寄った際、食事や買い物に足を運ぶようなPRの強化や配置の工夫が必要です。
- ◆ ハタハタ館や道の駅「みねはま」との連携が必要です。



←背が高くなった
ツツジ



←ハタハタ館1階
トイレから温泉棟
への通路

(4) 宿泊サービス機能に関する現状と課題

現状・問題点

- ハタハタ館については2人以上から団体客向けの客室、あきた白神体験センターについては宿泊体験学習等の団体利用を想定した客室構造となっており、少人数観光客やビジネス利用者にとっては利用しにくいです。
- 宿泊客・日帰り客共通のエントランス・受付カウンターはあるが、待合ロビーなど休憩できるスペースが少ないです。
- 3階客室とのコンセプトの一体感がありません。
- あきた白神体験センターの宿泊者のハタハタ館温泉利用時間が日帰り観光客と同時間（21時まで）となっています。
- あきた白神体験センターは館内履き移動、ハタハタ館は土足移動のため、施設内通路を利用するの往来がしづらいです。
- あきた白神体験センターについては、11月~2月の冬期間の学校団体利用は、天候が予想しにくく、安全面の確保も難しいため、利用が極端に少ないです。

課題

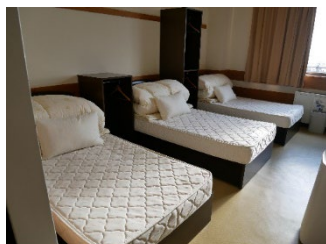
- ◆ 近年の旅行ニーズの変化、特にコロナ禍での少人数化、ソロ旅需要の増加、観光キャンペーン等による国内旅行需要の変化に対応できる個室を含めた客室を確保する必要があります。
- ◆ 日帰り・宿泊者チェックインカウンターを分けるなど、来訪者の利用目的や動線を踏まえた、エントランス・ロビーのあり方を検討する必要があります。
- ◆ 施設自体の魅力向上のため、統一感のある空間づくりも必要です。
- ◆ 今後の宿泊者の受け入れ体制等について、あきた白神体験センターとハタハタ館間の連携、利用者にとって利用しやすい施設となるようルールや協定の見直しが必要です。



[ハタハタ館の客室]



[ハタハタ館のエントランス]



[あきた白神体験センターの宿泊室]



[あきた白神体験センターのエントランス]

(5) 物販・体験等サービス機能に関する現状と課題

現状・問題点

- 冬季のイベントや体験メニューが少なく、冬季の利用者数も少ない状況です。
- 後継者不足や悪天候の影響で漁業収穫量が減少傾向にあり、安定供給が難しい状況です。
- 様々なお土産品を販売しているものの、売り場エリアの照明が暗く、商品の魅力が伝わりにくい雰囲気となっています。
- レストランの和室は現在利用されていない状況です。
- 外部からのレストランの視認性が低く、通行者に認知されにくいです。
- 産直ぶりこについて、入口すぐにレジがあるため、販売員の目が気になるといった声もあり、利用者が買い物しにくい構造となっています。

課題

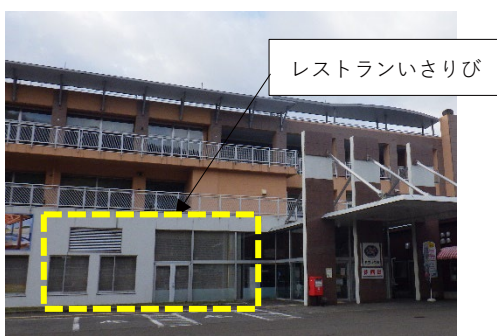
- ◆ 冬の魅力を押し出した体験プログラム等の商品開発や、冬を強みに変えるプロモーションの方策について検討する必要があります。
- ◆ 思わず商品を手に取りたくなるディスプレイや、商品を目立たせる工夫など、購買意欲を高める売り場づくりが必要です。
- ◆ 利用者が気持ちよく買い物ができるように、売り場のレイアウトを検討していく必要があります。
- ◆ さらなる誘客を図るため、通行者がレストランいさりびを認知しやすいよう、外からも目立たせる工夫やレストラン専用の入口の整備検討が必要です。



[ハタハタ館の売店]



[レストランいさりび入口]



[レストランいさりび (外からの様子)]



[産直ぶりこ]

(6) 駐車場の配置に関する現状と課題

現状・問題点

- ハタハタ館、あきた白神体験センター、オートキャンプ場への国道 101 号からの出入口がそれぞれ設置されており、動線が整理されていません。
- 駐車場とハタハタ館等の施設の間を人が不規則に行き来している状況です。
- ふれあいパーク側の駐車場の位置が不明確で、どこに駐車すればよいのかわからない状況です。(駐車場がない)
- ハタハタ館入口前に観光バスを停車させているため、出入口の妨げとなっています。
- ハタハタ館北側駐車場に段差が生じています。

課題

- ◆ 国道 101 号からの進入路をわかりやすくするとともに、普通自動車と大型車両別の動線計画が必要です。
- ◆ ふれあいパーク利用者のための駐車場整備が必要です。
- ◆ 駐車スペースには段差をなくし、駐車場内の歩行者と車両の動線の交差を避けるように駐車場を整備する必要があります。
- ◆ 普通車と大型バス等の動線を分け、良好な駐車環境の確保が必要です。



[駐車場の段差]

(7) バリアフリー等に関する現状と課題

現状・問題点

- 施設利用者は高齢者が多いにも関わらず、自由通路のハタハタ館側はスロープやエレベーターがなく、バリアフリー化が図られていません。
- 案内サインは全て日本語表記のみで、多言語対応となっていません。

課題

- ◆ 既存施設については、エレベーターやスロープ等の導入を検討するなど、バリアフリー化を図る必要があります。新規施設については、秋田県バリアフリー社会の形成に関する条例等に基づき整備する必要があります。
- ◆ 「道の駅」で新たに整備するトイレについては、男女ともにベビーベッド等を備えた子ども連れでも気軽に利用できるトイレとするとともに、ジェンダー対応等も踏まえ誰もが安心して利用しやすいトイレを検討する必要があります。
- ◆ 既存のトイレについては、「道の駅」との役割分担等を踏まえ、必要に応じて改修を検討する必要があります。
- ◆ 案内サインや総合案内板については、コロナ後のインバウンド回帰を見据え、容易に多言語対応が可能なデジタル総合案内板の導入や、ピクトサインを導入するなどユニバーサルデザイン化を図る必要があります。



[自由通路の階段]



[ハタハタ館の施設案内板]

2-5-2 道の駅はちもりの現状と課題

現状・問題点

- 建築年数が約 30 年経過しているため、建物の老朽化が進んでいます。
- 「地域連携機能」の役割が十分に果たせていません。

課題

- ◆ 老朽化が見られる施設については適切な対策を講じるとともに、計画的な修繕による施設の長寿命化を図る必要があります。
- ◆ 本エリア内の既存施設を道の駅の「地域連携機能」として活用し、休憩機能や情報発信機能、防災機能については整備します。



[施設の外観の様子]



[地域連携機能]

2-5-3 課題の整理

ここまでの検討をもとに、御所の台エリアの課題について、SWOT分析を用いて整理したものを以下に示します。

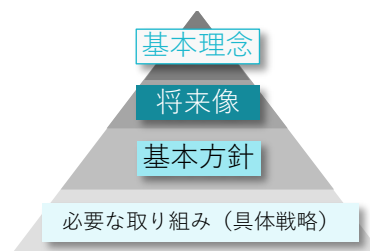
	機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
外部要因	<ul style="list-style-type: none"> 顧客ニーズの量から質への変化 “コト消費”への転換 個人・少人数旅行への転換 観光需要回復のための観光キャンペーン 円安と入国規制緩和による大幅なインバウンド需要増加への期待 新しい生活様式に応じた新しいツーリズム等のトレンドの変化（マイクロツーリズム、ワーケーション、ウェルネスツーリズム、アドベンチャーツーリズム、エコツーリズム、オンライン体験） IT技術発達による決済や予約方法等の多様化 SNSの普及による双方向の情報提供 SDGsに対する国際的な関心の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少と少子高齢化、厳しい財政制約 景気の低迷や新型コロナウイルス感染症拡大の影響 ハタハタ等の漁獲量の減少 自然災害の激甚化・多発化
	強み (Strength)	弱み (Weakness)
内部要因	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然（世界自然遺産白神山地、独特な地形の日本海の美しい夕陽） 多彩な体験メニュー（自然、食、創作、運動、学習） 日本海への眺望が魅力の温泉宿 全国的にも認知度が高いJR五能線、リゾートしらかみの停車駅が隣接 軽食施設やレストランによる利用者ニーズに対応できる食の提供 新鮮な海産物、特産品（ハタハタ、岩ガキ、アワビ、養殖サーモン、ギバサ、菌床しいたけ、石川そば、銘酒、きりたんぼ） 龍角散の原料となっているカミツレ畑 秋田大学や秋田国際教養大学等研究機関との連携協定 各種産学や友好都市との連携協定 	<ul style="list-style-type: none"> 冬季の観光客が少ない 首都圏からのアクセス性が悪い 公共交通の不足（便数が少ない、二次交通がない） 総合案内板や情報発信が不十分（各施設それぞれによる情報発信のみ） 宿泊客が少なく、短期滞在型・通過型の日帰り観光が多い 消費者にとって魅力あるコンテンツ・売り場づくりが不十分 自然災害による交通遮断 インバウンド対応が脆弱 観光に関わる人材不足 関連機関等との協力・連携不足

第3章 基本理念・将来像・基本方針

3-1 基本理念の設定

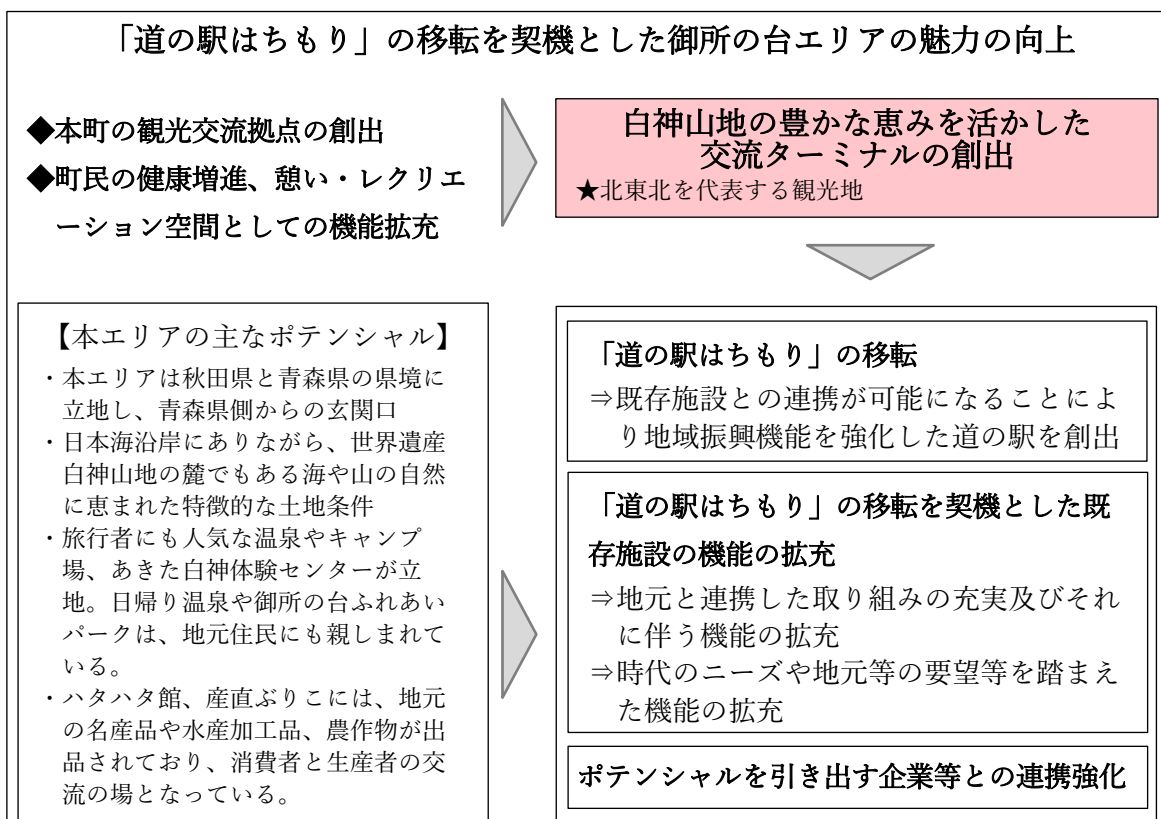
【基本理念、将来像等の位置づけ】

地域づくりや本エリアの再構築に関わる団体、住民等が、今後活動を展開していくにあたって大事にしたい思いやビジョンを「共通の価値観」として共有するため、基本理念を設定します。



<基本理念の考え方>

- ・本エリアに整備されている「ハタハタ館・産直ぶりこ」、「あきた白神体験センター」、「キャンプ場」などは、地元はもとより町外からの利用も多くみられる施設です。
- ・これらの町外からの利用が見込める施設が整備されている本エリアに、道の駅を移転することで、知名度の向上、時代のニーズに対応した新たな道の駅機能の拡充、本町の最大の魅力ともなる海や山などの自然の恵みなどのポテンシャルを活かした既存施設の機能の見直し、民間企業等とのタイアップなどを行い、エリア全体の魅力の向上を図り、本町の「観光交流拠点」を創出します。
- ・一方、「日帰り温泉（ハタハタ館）」や「御所の台ふれあいパーク」などは、町外からの利用のほか、町民の健康増進、憩い・レクリエーションの場ともなっていることから地元目線での機能強化も視野に入れながら、観光交流と地元交流を促進していくことで、地域活性化に資する『白神山地の豊かな恵みを活かした交流ターミナルの創出』となる拠点づくりを進め、将来的には、北東北を代表する観光交流拠点を目指していきます。



3-2 将来像の設定

基本理念に基づき、本エリアが向かうべき姿（将来像）を示します。



□各ゾーンの将来イメージ

ゾーン	将来イメージ
海辺体験ゾーン	・磯遊び、カヌー体験など海辺の自然を体験・学習できる場として活用
憩い・レクリエーションゾーン	・子ども達の遊びの場やイベント等、町民の憩い・レクリエーションの場とするとともに、山の自然の中で、日常では体験できないアクティビティ等を体験できる場として活用
山の自然体験ゾーン	・植物観察、トレッキング等、白神山地の自然を体験できる場として活用
企業とのタイアップゾーン	・本エリアの魅力向上に関連する企業などとのタイアップの場を創出
アウトドア系	・バーベキュー、キャンプ、グランピング、ドッグラン等の多様なアウトドア系施設等を開業できる場として想定
飲食・ショップ系	・レストラン等の飲食施設やスイーツ・パン等のショップを出店できる場として想定
リゾート系	・斜面を活用したリゾート系宿泊施設等を開業できる場として想定
生薬等栽培系	・地元農家や製薬会社等が生薬や農産物等の栽培畑や見学施設等を開設できる場として想定
ネットワーク軸	・道の駅や企業とのタイアップゾーン等を結ぶネットワーク軸として道路の環境整備

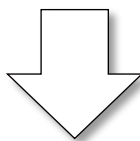
3-3 基本方針の設定

3-3-1 SWOT 分析による本エリアのポテンシャル

将来像の実現に向けて、「強み」「弱み」「機会」「脅威」で構成・検証する『SWOT 分析』によりまとめた当地の課題（本報告書 P.39 2-5-3 課題の整理）を『クロス SWOT 分析』しました。

クロス解析の結果について、次頁に掲載します。

機会 (Opportunity) 当地域のチャンスとなる外部要因	脅威 (Threat) 当地域を脅かす外部要因
強み (Strength) 当地域の武器	弱み (Weakness) 当地域の苦手なこと



強みを活かして、 機会を勝ち取るためには？ 強み×機会	強みを活かして、脅威を機会に 変える差別化とは？ 強み×脅威
弱みを補強して、 機会をつかむための施策とは？ 弱み×機会	弱みから最悪のシナリオを 避けるためには？ 弱み×脅威

	機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
強み (Strength)	<p>強みを活かし、 機会を勝ち取るためには？</p> <p>強み×機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●既存施設の機能拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の移転を契機とした、本エリア全体の機能拡充 ・道の駅移転による情報発信機能の拡充、防災機能の強化 ・ワーケーション需要（長期滞在）の獲得 ●地域資源の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ニューツーリズムの推進 ・新鮮な地元食材等を使用した郷土料理や食材等の提供機会の拡大 ・写真映えスポットの創出 ・山本酒造店や DOHACH（どはち）等、若い人の活躍 	<p>強みを活かし、 脅威を機会に変える差別化は？</p> <p>強み×脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> ●賑わいの創出 <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源等を活用した新たな観光プランの開発 ・ポテンシャルを引き出す企業等との連携・認知度の UP
弱み (Weakness)	<p>弱みを補強し、 機会を掴むための取り組みは？</p> <p>弱み×機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●デジタル技術を活用したコンテンツ開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ライブ配信やアーカイブ動画配信による PR ・当地ならではの お取り寄せ商品の販路展開 ・情報シェア（SNS、口コミサイト、海外向けサイト）や応援（ふるさと納税、クラウドファンディング）の仕掛け ・観光 DX の活用 ・キャッシュレス決済の推進によるインバウンド需要への対応 	<p>弱みから 最悪のシナリオを避けるためには？</p> <p>弱み×脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> ●逆転の発想による付加価値の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・冬の厳しさ、アクセスの不便さを逆手に取った観光プラン ・漁獲量減を逆手にハタハタの再ブランド化 ●既存施設の質的改善 <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー化の徹底、ユニバーサルデザインの導入 ・総合案内板の設置 ・購買意欲を高める売り場のリニューアル

3-3-2 基本方針の設定

上記 SWOT のクロス分析等を踏まえ、基本理念・将来像を実現するための取組みの基本方針を設定します。

基本方針 1 地元事業者等と連携した1年を通じ、にぎわいを創出する“しかけ”づくり

- ◆ 冬の厳しさ、漁獲量が減少しているハタハタなど、当地域のマイナス部分をあえて活用し、付加価値を高めた観光プランの開発、ハタハタの再ブランド化などを目指します。
- ◆ 自然、食、温泉など本エリアの魅力を引き出す資源等を磨き上げるとともに、各資源等を活用し、ストーリー性や来訪目的を明確化した観光プラン等の充実を目指します。
例：健康増進
自然体験(体を動かす)⇒温泉(体を休める)⇒食(郷土料理・薬膳料理)
- ◆ 日本海に沈む美しい夕日、強風体験、冬の荒波など、本エリアならではの魅力を堪能できる観光(写真映え)スポットづくりを目指します。
- ◆ 地元の新鮮な食材等を使用した郷土料理などを気軽に味わえるメニュー開発やオートキャンプ場利用者などが、その場で地元食材等を入手できる環境づくりを目指します。
- ◆ 免許を返納した高齢者、車を持たない若者や外国人観光客などの来訪を促進していくため、JR 五能線などを活用した車を利用せずにも来訪できる観光地づくりを目指します。
- ◆ 本町及び本エリアの魅力でもある自然・食・生薬栽培を基軸とした新たな取り組みとして、意欲ある地元事業者や金融機関、県内外の企業など、本エリアのポテンシャルを引き出す企業等とのタイアップを促進していきます。

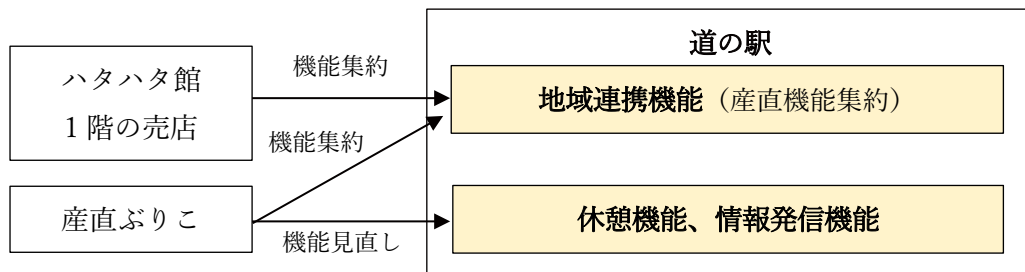
基本方針 2 デジタル技術を活用したコンテンツの開発

- ◆ デジタル技術を活用し、地域や道の駅の魅力・情報を提供するとともに、観光に関する情報を集約し、戦略的な広報・宣伝の開発を目指します。
- ◆ 地域の商品やサービス等をオンライン上で予約、購入できる新たな販路展開を創出します。
- ◆ 多彩なキャッシュレス決済対応やデジタルコンテンツ(SNS等)を活用した認知獲得等、インバウンド需要に対応していきます。

基本方針3 道の駅はちもりの移転を契機とした本エリアの機能拡充・質の向上

◆ 道の駅はちもりの移転を契機とし、近年の道の駅の役割や機能の変化、既存施設との連携、地元や時代のニーズ等を踏まえ、エリア全体の機能の見直しを行い、本エリアの魅力向上につながる機能の拡充等を図ります。

⇒現在、町外からの利用や町民等の宿泊・健康増進拠点となっているハタハタ館や地域の特産物等を販売している産直ぶりに道の駅を移転し、休憩機能や情報発信機能、地域連携機能を集約することで道の駅の機能をもった宿泊・健康増進・特産品販売拠点としていきます。また、非常用発電設備等の導入など、防災機能の強化やハタハタ館とあきた白神体験センターとの一体的利用やセキュリティを高め、より利用しやすい施設としていきます。



⇒ハタハタ館の温泉や子ども達の屋内遊び場など健康増進機能については、利用状況や地元の意向等を踏まえ、必要に応じ機能拡充を検討していきます。

⇒施設の通年利用に制限をもつあきた白神体験センターについては、制限解除等を行い通年利用型の施設としていくとともに、ハタハタ館との利便性の向上や時代のニーズ等に対応した施設としていくため、施設機能の見直しを検討します。

⇒利用者が減少している野球場、冬期利用などが問題となっている御所の台ふれあいパーク、オートキャンプ場などは、企業等とのタイアップを促進していくゾーンとしての活用を含め既存施設の機能の見直しを行い、民間主導による新たな活用を検討します。

⇒誰もが、安心して快適に利用できるよう、ユニバーサルデザイン (バリアフリー化等) の導入や多言語対応型の案内板の設置等の環境整備を検討するとともに、本町の脱炭素の実現に向け、温泉熱利用や再生可能エネルギーを活用した電力の導入など環境へ配慮した施設整備を検討します。

⇒海の駅とハタハタ館などを結ぶ海岸沿いの道路については、道路の拡幅や連続した植栽等を検討し、各駅等を結ぶネットワーク軸を形成していきます。

第4章 事例調査

他地域の観光に対する様々な取り組み事例を示します。

4-1 ニューツーリズム

4-1-1 冬季コンテンツ造成とイベントの連動による宿泊促進

名称（地域）	十和田湖八幡平国立公園（青森県十和田市十和田湖畔）																										
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 十和田湖八幡平国立公園は、本州北部の山岳地帯にあり、八甲田山、十和田湖、奥入瀬溪流などからなる十和田・八甲田地域と、八幡平、秋田駒ヶ岳、岩手山などからなる八幡平地域で構成される、山と湖と溪流の公園です。 平成28年7月に「国立公園満喫プロジェクト」に選定されています。 																										
課題	<ul style="list-style-type: none"> 夏季に比べて冬季（12月～3月）の観光入込客数が少ない状況となっています。 <div data-bbox="592 949 1262 1352" style="text-align: center;"> <p>平成28年 十和田市観光入込客数</p> <table border="1"> <caption>平成28年 十和田市観光入込客数 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>観光入込客数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1月</td><td>80,000</td></tr> <tr><td>2月</td><td>90,000</td></tr> <tr><td>3月</td><td>90,000</td></tr> <tr><td>4月</td><td>200,000</td></tr> <tr><td>5月</td><td>320,000</td></tr> <tr><td>6月</td><td>250,000</td></tr> <tr><td>7月</td><td>310,000</td></tr> <tr><td>8月</td><td>400,000</td></tr> <tr><td>9月</td><td>380,000</td></tr> <tr><td>10月</td><td>470,000</td></tr> <tr><td>11月</td><td>180,000</td></tr> <tr><td>12月</td><td>90,000</td></tr> </tbody> </table> </div>	月	観光入込客数 (人)	1月	80,000	2月	90,000	3月	90,000	4月	200,000	5月	320,000	6月	250,000	7月	310,000	8月	400,000	9月	380,000	10月	470,000	11月	180,000	12月	90,000
月	観光入込客数 (人)																										
1月	80,000																										
2月	90,000																										
3月	90,000																										
4月	200,000																										
5月	320,000																										
6月	250,000																										
7月	310,000																										
8月	400,000																										
9月	380,000																										
10月	470,000																										
11月	180,000																										
12月	90,000																										
取組	<p>「奥入瀬溪流水瀑ツアー」</p> <ul style="list-style-type: none"> 2017年から開催され、十和田湖畔の隣接エリアである奥入瀬溪流において、冬にしか見ることができない氷柱や氷瀑をめぐるバスツアーとなっています。 <div data-bbox="624 1594 1233 1998" style="text-align: center;"> <p>奥入瀬溪流水瀑の様子</p> </div>																										

	<p>「十和田湖冬物語」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1998年度から開催しており、郷土料理が楽しめるエリアや冬花火、ライトアップ等が行われ、東北最大の雪まつりとなっています。 ・2020年度からは、「十和田湖冬物語」をリニューアルし、十和田湖畔の集団施設地区内でイルミネーションイベントが開催されました。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="507 521 938 728"> </div> <div data-bbox="943 521 1353 824"> </div> </div> <p style="text-align: center;">十和田湖冬物語 2023</p> <p style="text-align: center;">イルミネーションイベント (カミのすむ山 十和田湖 FeStA LuCe)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他にも、「スノーナイトウォーク」や「十和田湖冬さんぽ」、「十和田湖カヌーツアー」、「十和田サウナ」、「かんじきフットパス」等の冬コンテンツがたくさんあります。 																																				
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「奥入瀬渓流水瀑ツアー」実施前の平成28年度と比較すると実施以降の冬季観光入込客数は増加傾向となっています。 <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <caption>平成28年度～令和2年度 十和田市観光入込客数 (12月～3月)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度</td> <td>80,000</td> <td>70,000</td> <td>80,000</td> <td>76,858</td> <td>356,858</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>90,000</td> <td>80,000</td> <td>90,000</td> <td>147,465</td> <td>407,465</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>80,000</td> <td>70,000</td> <td>80,000</td> <td>125,563</td> <td>385,563</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>90,000</td> <td>80,000</td> <td>90,000</td> <td>128,799</td> <td>388,799</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>70,000</td> <td>60,000</td> <td>70,000</td> <td>77,701</td> <td>277,701</td> </tr> </tbody> </table> </div>	年度	12月	1月	2月	3月	合計	平成28年度	80,000	70,000	80,000	76,858	356,858	平成29年度	90,000	80,000	90,000	147,465	407,465	平成30年度	80,000	70,000	80,000	125,563	385,563	令和元年度	90,000	80,000	90,000	128,799	388,799	令和2年度	70,000	60,000	70,000	77,701	277,701
年度	12月	1月	2月	3月	合計																																
平成28年度	80,000	70,000	80,000	76,858	356,858																																
平成29年度	90,000	80,000	90,000	147,465	407,465																																
平成30年度	80,000	70,000	80,000	125,563	385,563																																
令和元年度	90,000	80,000	90,000	128,799	388,799																																
令和2年度	70,000	60,000	70,000	77,701	277,701																																
<p>出典</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園満喫プロジェクト取組事例集 																																				

4-2 デジタル技術やオンラインの活用

4-2-1 データ分析・アプリの導入

<p>名称（地域）</p>	<p>下呂温泉（岐阜県下呂市）</p>
<p>特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光庁は、<u>地域内の宿泊施設の宿泊客データを DMO に集約する宿泊データ分析システムと、地域のファンをつくりリピーターを確保する CRM（顧客関係管理）のための観光地情報アプリの2つの機能について</u>、令和2年度下呂市を含む4地域のモデル地域を選定し実証を行っています。 下呂温泉は、飛騨川の流域に湧く下呂温泉は室町時代京都五山の僧万里集九や、徳川家康から四代の将軍に仕えた儒学者林羅山により、兵庫県の有馬温泉、群馬県の草津温泉と並ぶ「日本三名泉のひとつ」と称された天下の名泉です。温泉街は飛騨川を中心に歓楽的な賑わいと山里の風情が調和して、下呂温泉の魅力を醸し出しています。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各宿でそれぞれ異なる形式のデータを毎月手作業で集計しているため、膨大な時間がかかっていました。そのため、デジタル技術を活用することで効率化を図る必要があります。
<p>取組</p>	<p>「宿泊データ分析システム」…主に宿泊施設が保有する観光客のデータを収集し、提供いただいたデータを活用して、自施設や地域全体のデータを分析して、どのような観光客が地域に来ているのかを正確に把握する。</p> <div data-bbox="608 1272 1225 1592" data-label="Diagram"> <p>宿泊データを収集する</p> <p>宿泊施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊者数 ● 年代 ● 性別 ● 利用プラン など <p>データ収集・分析プラットフォーム</p> <p>その他のデータ*</p> <p>※その他のデータとしては、地域で実施したアンケート調査の結果、全国観光関連データ (RESASなど) など連携でき、自社や地域のデータとあわせて分析ができる</p> <p>データを分析する</p> <p>宿泊施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自社データ ● 地域全体のデータ ● その他データ* <p>DMO</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域全体のデータ ● その他データ* <p>※1ポイント1円で使用でき、地域内だけで使えるお金に近い</p> </div> <p>「CRM（顧客関係管理）アプリの導入」</p> <div data-bbox="608 1693 1225 2007" data-label="Diagram"> <p>観光客（アプリ会員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個人情報 ● クルメ情報 ● ポイント ● アンケート-hetc. <p>アプリ加盟店</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グルメ・買い物などの情報提供 ● 買い物時にアプリを提示 ● ポイント付与 ● アンケート実施 ● アンケート回答 <p>DMO</p> <p>分析→施策</p> <p>※1ポイント1円で使用でき、地域内だけで使えるお金に近い</p> </div>

	<p>・利用者側から見れば、地域の観光情報が得られ、買い物や体験ごとにポイントがつき、地域内で使用できるアプリです。ただし、利用時に会員登録を伴うため、地域側は利用者の情報が得られる形になっています。アプリを使ってもらっただけで、どんな属性の人がどんな消費をしたかというデータが蓄積され、それを誘客とリピーター獲得に活かすことができる仕組みとなっています。</p>													
<p>成果</p>	<p>◆「宿泊データ分析システム」による成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DMO と参画するすべての宿泊施設が「日」単位で宿泊者の動向を把握できる状況になりました。 <p>◆「CRM アプリの導入」による成果</p> <p>【会員・加盟店増】 様々な工夫・取組により、加盟店数、会員数とも順調に増加。</p> <p>【マーケティング効果】</p> <p>○観光客の回復：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①令和4年5月の観光客数はコロナ前の水準まで回復 ②リピーター前年比2万人増 新規獲得前年比5万4千人増 <table border="1" data-bbox="619 949 1139 1144"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地域名</th> <th colspan="2">導入時点(2021年3月現在)</th> </tr> <tr> <th>会員数</th> <th>参画事業者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">岐阜県下呂エリア</td> <td>2,671</td> <td>39</td> </tr> <tr> <th colspan="2">現在 (2022年5月現在)</th> </tr> <tr> <td></td> <td>8,371</td> <td>47</td> </tr> </tbody> </table> <p>○観光・経済効果：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①宿泊者数が前年比 113.7%、 ②体験商品消費額が前年比 111%(令和3年度) <p>【人材育成】 データを踏まえた施策検討を継続する事で、もともとマーケティングの知識のない人でも施策を打てるようになっています。</p>	地域名	導入時点(2021年3月現在)		会員数	参画事業者数	岐阜県下呂エリア	2,671	39	現在 (2022年5月現在)			8,371	47
地域名	導入時点(2021年3月現在)													
	会員数	参画事業者数												
岐阜県下呂エリア	2,671	39												
	現在 (2022年5月現在)													
	8,371	47												
<p>出典</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)JTB 地域向け生産性向上ソリューション~宿泊データの利活用による地域連携と全体最適~ 『宿泊データ分析システム』 ・じゃらんリサーチセンター 『とーりまかし』2021年6月号 今こそ取り組むべき地域のDX観光マーケティングをデジタルで加速せよ！ 													

4-2-2 体験型商品予約サイト（青森県津軽地域観光情報サイト）

<p>名称（地域）</p>	<p>一般社団法人 Clan PEONY 津軽（津軽圏域 14 市町村：弘前市、黒石市、五所川原市、つがる市、平川市、鱒ヶ沢町、深浦町、西目屋村、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町、鶴田町、中泊町）</p>
<p>特徴</p>	<p>・津軽圏域 14 市町村で地域連携 DMO（Destination Management Marketing Organization 地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人）「一般社団法人 Clan PEONY 津軽」を設立しています。</p> <div data-bbox="555 645 1337 1081" data-label="Diagram"> </div> <p>・当該圏域は、世界自然遺産「白神山地」や日本百名山「岩木山」のほか、弘前城や斜陽館などの歴史的建造物、津軽塗やこぎん刺しといった伝統工芸品、りんごをはじめとした農産物や海産物など、魅力的な観光資源を有しています。</p>
<p>課題</p>	<p>①地域ならではの魅力的な資源の掘り起こし 津軽地域には現存十二天守「弘前城」や世界自然遺産「白神山地」、高さ 23m を誇る「立佞武多」、日本一の生産量を誇る「りんご」などを目的に、多くの観光客の方々が訪れていますが、<u>地域になかなかお金が落ちていない状況です。</u>そのため、青森ならではの優れた観光資源を活用することで伸び代がまだまだあるエリアとなっています。</p> <p>②お客様への効果的なプロモーション 地域商品の販売は個々の事業者様の HP を確認した上での電話予約や埋没してしまいがちな OTA サイト等での販売が主流であり、<u>地域に訪れている旅行者に、魅力的な商品が存在していても必要な情報を届けられていない</u>という現状です。</p>

取組

・ **体験商品の造成と販売の取組**

「JTB BÓKUN※」を活用し、圏域内の事業者が提供する体験商品を一元的に販売できる販売サイトが整備されています。それにより、圏域全体のプロモーションと一元的に販売できる販売サイトを確保することができました。

※観光事業者向けに販売・予約管理機能及び B2B プラットフォームを提供するシステム。体験型商品の予約在庫管理にくわえ、流通拡大の支援を行っているサービスです。

【津軽圏域の体験商品の販売 HP】

※2023 年 6 月時点で計 33 種類の商品が販売されている



通常、販売ルートを確保し、体験商品の造成することは、ある程度の時間や労力等を要します。しかし、国の支援を活用することで、販売体制の整備と商品の造成を進めることが可能となりました。

【国の主な支援】

年度	事業名	予算額	支援対象経費
令和2年度 第1次補正予算	誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成事業	約102億円	補助率：100%
			補助上限額：2,000万円
令和2年度 第3次補正予算	地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進事業	約50億円	補助率：100%
			補助上限額：1,500万円
令和3年度 経済対策関係予算	地域独自の観光資源を活用した地域の輝ける看板商品の創出事業	約101億円	補助率：500万円まで定額（10/10） +500万円を超過する部分については1/2 補助上限額：1,000万円

出典

- ・ 公益社団法人日本交通公社「地域に稼いでもらうために DMO ができることは？」
- ・ 青森県津軽地域観光情報サイト「津軽なび」体験予約ページ
- ・ JTB BÓKUN 導入事例 一般社団法人 Clan PEONY 津軽

4-2-3 商品のオンライン販売



<p>名称（地域）</p>	<p>道の駅「しかべ間歇泉公園」（北海道鹿部町）</p>
<p>特徴</p>	<p>・2016年にオープンし、鹿部町の特産、海の幸と温泉の魅力が楽しめる道の駅です。噴きあげる大迫力の間歇泉や足湯が楽しめる「間歇泉公園」と鹿部の食を堪能できる「鹿部食とうまいもの館」が併設し、開業以来、レジャーや観光でたくさんの人が訪れています。</p>
<p>取組</p>	<p>「WEB オンライン来店」（ネット中継販売）</p> <p>・新型コロナウイルスの感染拡大により外出自粛や道の駅の休業等により来場者が大幅に減少すると予測され、2020年4月22日から、オンラインのテレビ電話による接客サービス「WEB来店サービス」を全国の道の駅に先駆けて導入されました。</p> <div data-bbox="595 817 1243 1124" data-label="Diagram"> <p>WEB来店店の仕組み</p> </div> <div data-bbox="557 1146 1279 1825" data-label="Complex-Block"> <p>ありそうでなかった道の駅体験</p> <p>たくさんのメディアさんで話題のWEB来店</p> <p>どこでも その名も！</p> <p>ニコニコスタッフからお買い物 from 道の駅しかべ間歇泉</p> </div>
<p>成果</p>	<p>・客単価は、実際に来店するお客が払う2000円弱の5倍、1万円近くに達しました。</p>
<p>出典</p>	<p>・道の駅「しかべ間歇泉公園」ホームページ メディア掲載 日経トッパーリーダー2020年8月号</p>

名称（地域）	道の駅「さんわ 182 ステーション」(広島県高原町)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年3月リニューアルオープン。広い産直市場には、朝どれの野菜や神石牛・地酒・漬物・こんにゃく・はちみつ・ジャムなどの特産品が揃い踏み。182 C A F E では町内の食材をふんだんに使ったここでしか食べられないメニューを提供。自然食レストランでは、地元の主婦が地元の食材で作る”おふくろの味”をバイキング形式で楽しめる。町内唯一のコンビニエンスストアも併設。
取組	<p>「3D バーチャルショップ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店の雰囲気や陳列の様子等、実際にお店で買い物しているかのように店内をめぐることができます。また、商品詳細や生産者の商品に対する熱い想いを紹介した動画も視聴することができます。 ・取扱商品は20商品（2022年1月時点）あり、今後さらに増やしていく予定となっています。 <div data-bbox="483 902 1369 1406" data-label="Image"> </div> <p>[3D バーチャルショップの様子]</p> <div data-bbox="483 1473 1369 1955" data-label="Image"> </div> <p>[紹介動画]</p>
出典	・道の駅「さんわ 182 ステーション」ホームページ

4-3 官民協働・地域連携

4-3-1 民間企業等との連携

名称（地域）	道の駅「象潟ねむの丘」（秋田県にかほ市象潟町）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度に国土交通省から重点「道の駅」※に選定されました ・鳥海山や九十九島、日本海、飛島、男鹿半島に囲まれている道の駅です。 <p>※重点「道の駅」とは、地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できる道の駅を示します。</p>
取組	<p>「民間企業との包括連携協定」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年 8 月に mont-bell とにかほ市は包括連携協定を締結し、道の駅「ねむの丘」の物販スペースの一部で mont-bell の商品を豊富に取り揃えています。 <p>（mont-bell は秋田県とも包括連携協定を締結しているほか、秋田県内の北秋田市、由利本荘市、にかほ市、仙北市、美里町とも包括連携協定を締結しています。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅が鳥海山の麓に位置していることから、鳥海山登山客が利用しています。 ・令和 5 年度には、自然体験型の観光を振興する「アウトドアアクティビティ施設」を建設する予定となっています。施設内には、ビジターセンターやアウトドアアクティビティ体験、ガイドの受付、アウトドア用品のレンタルなど、にかほ市が有する地域資源を活用した滞在・体験型の観光事業を推進する予定となっています。 <div data-bbox="603 1346 1217 1800" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">出典：mont-bell 公式 HP</p>
出典	<ul style="list-style-type: none"> ・mont-bell ホームページ ・にかほ市 ホームページ

名称（地域）	Vison（三重県多気町）
概要	<p>所在地：三重県多気郡多気町ヴィソン 事業者：合同会社三重故郷創出プロジェクト 運営会社：ヴィソン多気株式会社 主要出資者：アクアイグニス、イオンタウン、ファーストブラザーズ、ロート製菓 事業内容：複合商業リゾート施設 事業費：約 220 億 敷地面積：35 万坪 延床面積：約 10,000 坪</p>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 『三重故郷創生プロジェクト』（株式会社アクアイグニス、イオンタウン株式会社、ファーストブラザーズ株式会社、ロート製菓株式会社の4社からなる合同会社）のノウハウを集結させ、三重県・多気町・三重大学と産学官連携により、民間初のスマート IC 直結の施設として2021年4月第1期オープンから7月までのグランドオープンまで三段階に分け開業しました。 施設内は9つのエリアで構築され、宿泊施設やミュージアム、飲食店や温浴施設、農園、マルシェ等、子どもから大人までが楽しく過ごすことができる日本最大級の商業リゾート施設です。
取組	<p>「SDGs への様々な取り組み」</p> <ul style="list-style-type: none"> 木材を使用して施設を建築するなど林業を継続した産業として支えることを目指しています。 三重県内にて余っている生地を買い取り VISON エコバッグ製造などに活用、売れ残った魚や野菜市場で余った食材を再利用し、食品ロス0の取り組みを行い、さらに延縄（はえなわ）漁で捕られたマグロのみを販売し乱獲を防止、地域産物の価値向上を目指しています。 <p>「スーパーシティへの取り組み」</p> <p>当施設をスーパーシティのグリーンフィールドとし、施設内での自動運転、モビリティ、自律式ドローンの活用、遠隔医療クリニック、キャッシュレス・地域通貨に取り組み、これらの先端的サービスを一つの ID で管理する「One-ID」データ連携基盤を構築します。その実践によるノウハウを連携する6市町（多気町・大台町・明和町・度会町・大紀町・紀北町）に展開することで地域住民の利便性の向上、地域活性化を図り、新たな未来社会の先行実現を目指しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

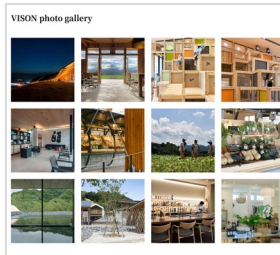
取組

(補足)

「サイトの充実」

VISON の雰囲気が存分に伝わる写真や文章が掲載されているため、「行ってみたい!」と思えるホームページの掲載になっています。

- ・公式ホームページ内で、宿泊予約や体験予約をすることができます。
- ・マルシェで販売している新鮮な野菜や海の幸、地元食材を使った料理や芸術的な建築物等、魅力的な写真が数多く掲載されています。



- ・VISON がおすすめする目的別のコース（子どもと一緒に楽しむコース、食を楽しむコース等）も掲載されているため、効率的に施設内を回ることができます。
- ・来訪者の目線から見た施設の魅力について、写真やコメントが共有されています。


<p>子どもと一緒に楽しむコース</p> <p>0900年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>0900年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1200年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1300年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1400年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1500年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1600年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1700年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1800年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p>	<p>食を楽しむコース</p> <p>0900年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1000年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1100年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1200年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1300年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1400年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1500年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1600年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1700年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1800年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p>	<p>アートを楽しむコース</p> <p>0900年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1000年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1100年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1200年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1300年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1400年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1500年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1600年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1700年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1800年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p>	<p>食を楽しむコース</p> <p>0900年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1000年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1100年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1200年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1300年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1400年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1500年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1600年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1700年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1800年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p>	<p>食を楽しむコース</p> <p>0900年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1000年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1100年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1200年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1300年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1400年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1500年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1600年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1700年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p> <p>1800年 2023年10月10日(土)開催 予約受付中</p>
--	---	---	---	---

出典

- ・「VISON」ホームページ
- ・PRTIMES ヴィソン多気株式会社 プレスリリース
- ・VISON 資料



〔施設全体図〕

名称（地域）	道の駅「おがわ」（長野県小川村）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市と白馬村の間、北アルプス連峰を一望できるロケーションに位置しています。 ・地元の味、『おやき』、『手打ちそば』や朝採れたての『新鮮野菜』など小川村が詰まった道の駅です。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・かねてより村民の皆様から要望があった、「買い物不便解消」に取り組む必要がありました。
取組	<p>「大手コンビニチェーンと包括連携協定」</p> <p>商品・サービスの提供に加え、地元ストアスタッフの採用による雇用の創出や地域のコミュニケーションスペース、防犯拠点としての活用など、様々な観点から地域の皆さまに密着した店舗づくりとなっています。</p> <p>(1) 地産地消・品揃えについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店内に特設コーナーを設け、地域の青果、生鮮品、特産品を販売 <p>(2) 地域振興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小川村で開催される催事と連携した販売企画 ・店舗内に村民の持ち寄りによる図書コーナーを設置、運営 <p>(3) 地域の安心・安全、子育て支援に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セーフティーステーションの拠点として、地域の防犯に協力 ・ベルマーク活動や店舗体験学習等の企画に協力 <p>(4) 観光支援に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の催事開催時の出張販売実施 ・店舗内で村の観光案内掲出、その他、小川村のPRに幅広く協力 <p>(5) その他地域社会の活性化・村民サービスの向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗における村民サービス向上を目的としたアンケート等への協力 ・雇用支援を目的とした従業員の積極的な村民雇用 <div style="text-align: center;">  <p>[コンビニエンスストアの様子]</p> </div>
出典	<ul style="list-style-type: none"> ・「ファミリーマート」ホームページ ニュースリリース 2019 ・信州 STYLE

4-3-2 姉妹都市との連携

名称（地域）	道の駅「あ・ら伊達な道の駅」（宮城県大崎市）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度に国土交通から重要「道の駅」として選定されました。 ・施設内には、レストランやパン工房、手づくり民芸品店などが並んでいます。特に人気が高いのが、新鮮な野菜が並ぶ農産物直売所や姉妹都市特産品コーナー。（大崎市・北海道当別町・愛媛宇和島市）。休日になれば、観光客だけでなく、地域の人たちのにぎわいの場にもなっています。
取組	<p>「姉妹都市の特産品販売」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大崎市と姉妹都市である北海道当別町には有名チョコレート企業の「ロイズ」が工場を構えています。直営店舗は北海道のみですが、姉妹都市の縁から「あ・ら伊達の道の駅」にロイズコーナーを常設し、約 150 種類の商品が並んでいます。 <div data-bbox="632 909 1200 1279" data-label="Image"> </div> <p>[ロイズコーナーの様子]</p>
出典	・「あ・ら伊達道の駅」ホームページ

4-3-3 地域連携

名称（地域）	道の駅「米沢」（山形県米沢市）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度に国土交通から重点「道の駅」として選定されました。 ・道の駅米沢は、「オール米沢（置賜）を体感・創造・発信する道の駅」をコンセプトに、山形県の南の玄関口に位置するゲートウェイ型の重点道の駅です。 <p>ゲートウェイ機能として、総合観光案内所を設置して、外国語の対応できる観光コンシェルジュを配置し、地域の情報を積極的に発信しています。</p> <p>地域産業振興機能として、農産物直売所や特産・物産販売所、地域の食の魅力を発信するフードコートや米沢牛レストラン、6次産業を推進する農産物加工所などがあります。</p>
取組	<p>「まちナビカード」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・置賜地域のレストランや温泉施設等の割引カードが提示されており、来場者を置賜や県内各地へと誘導する役割を担っています。 
出典	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「米沢」ホームページ ・米沢品質

4-4 子どもの遊び場の整備

「道の駅」第3ステージでは、「あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センター」を目指し、道の駅に子育て支援応援施設の併設などを推進しています。それにより、子ども連れのご家族でも利用しやすい施設になっています。

下記に道の駅にて設置されている子どもの遊び場の事例を示します。

①こども木育広場「つながる〜む」（道の駅「国見あつかし郷」：福島県国見町）

道の駅構内に設置している木育広場としては東北初の施設です。屋内のため、天候に左右されることなく親子で木のおもちゃで遊ぶことができます。入場無料で、町外・県外の方も利用することができます。

また、子育て支援センターには常時保育士が配置しているため、育児や子育てに関する相談をすることができます。（町外の方も対応）



出典：福島県ホームページ

②もも Rabi キッズルーム（道の駅「ふくしま」：福島県福島市）

福島県産の木をふんだんに使った子どもの遊び場です。木製の迷路（下記左図）や収穫～販売～調理までを体験できる木製玩具（下記右図）が備わっています。こちらも全天候型のプレイゾーンのため、雨の日も雪の日も、子どもがのびのびと遊ぶことができる空間となっています。



4-5 フォトジェニック※スポット（写真映えスポット）

近年、多くの方が SNS 等を利用するようになり、特に、若い世代は SNS の投稿から写真映えする観光スポットや食べ物等を探し、観光地を訪れる形が主流となってきています。若い世代の間では、いかに“映え写真”が撮れるかが SNS の投稿の重要ポイントとなっており、思わず写真を撮りたくなるような絶景や“写真映え”スポット等が国内にたくさんあります。

下記に国内のフォトジェニックスポットの事例を示します。

①道の駅「小豆島オリーブ公園」（香川県小豆郡）

園内には多数のフォトジェニックなスポットが点在し、SNS 映えの写真を撮るために多くの人が訪れています。



出典：道の駅「小豆島オリーブ公園」ホームページ



②父母ヶ浜（香川県三豊市）

夕暮れ時、潮だまりに写る夕日と水際にたたずむ人のシルエットが鏡のように写る写真が「天空の鏡」と呼ばれ、SNS を中心に注目されています。



出典：三豊市観光交流局



③アカオハーブ&ローズガーデン（静岡県熱海市）

空に浮いているような「空飛ぶブランコ」や海を切り抜くフレームベンチが常設されており、フォトスポットとして人気があります。



出典：小田急トラベル



※「フォトジェニック」とは、写真映りが良いという意味であり、思わず SNS 等で高評価（「いいね」）をつけたくなるような魅力的な写真を示します。

第5章 道の駅導入機能・実現に向けた取り組み

5-1 道の駅の導入機能の設定

基本理念、将来像、基本方針を踏まえ、道の駅へ導入する機能を以下のとおりとします。

導入機能	導入施設	考え方	備考
休憩機能	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅の本来の休憩機能として必要となる駐車台数を確保することを基本とします。 民間とのタイアップ等により、来訪者が増加することも考えられることから、敷地に余裕がある場合には、可能な限り、駐車台数を追加していくこととします。 	移転前の駐車場整備台数 大型車 5台 小型車：30台
	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅の本来の休憩機能として24時間利用できるトイレを整備します。 誰でもトイレ(身障者、オストメイト対応、ジェンダー対応等)、パウダールーム、ベビーコーナー(おむつ替え台、授乳室等)などを整備し、トイレの機能拡充を図ります。 誰もが快適に利用できるように明るさと清潔感のあるトイレの整備を図ります。 	移転前のトイレ整備状況 男：大2、小3 女：4 身障者用：1
	休憩コーナー	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅の本来のドライバー等の休憩機能として24時間利用できる休憩コーナーを整備します。 長距離ドライバー等が気軽に利用できるシャワー室付の休憩コーナーの設置を検討します。 	
情報発信機能	情報発信コーナー	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅の本来の情報発信機能として24時間利用できる情報発信コーナーを整備します。 	
地域振興機能	特産品等の販売コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ハタハタ館の売店スペースに、道の駅や産直ぶりのこの販売スペースを集約し、特産品等の販売コーナーを整備します。 	
防災機能	防災関連設備	<ul style="list-style-type: none"> 防災機能をもった道の駅としていくため、24時間対応電話、非常用発電設備、耐震性貯水槽、耐震性汚水槽(汲み取りタイプ)等の整備を検討します。 	
その他	自由通路、海側出入口	<ul style="list-style-type: none"> 現在の産直ぶりの北側に設置されている自由通路の出入口部分は、道の駅と一体的に利用できるようにし、新たにエレベーターを設置します。 	
	サイクルステーション	<ul style="list-style-type: none"> 電動キックボードやレンタサイクル、自転車の空気入れ・工具などを備えたサイクルステーションを整備します。 	

5-2 既存施設等の方向性

基本理念、将来像、基本方針を踏まえ、既存施設等の連携・利活用等の方向性を検討します。

施設名（※）	連携・利活用等の方向性	主体
ハタハタ館 （道の駅）	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の温泉を活用した健康増進機能にプラスし、道の駅を整備し、道の駅の機能をもった宿泊・健康増進拠点として活用していきます。 ⇒1階、売店部分に産直ぶりこの販売機能を集約し、地域連携機能として活用していきます。 ⇒近年は、少人数旅行やビジネス利用などの需要が高まり、ハタハタ館において、少人数向けの宿泊施設がないことなどを踏まえ、2階部分の交流広間については、単身・少人数向けの宿泊施設としての活用を図ります。温泉利用者等の休憩の場となっている交流広間の機能については、現在、利用されていない1階のトレーニングルームを活用していきます。 ⇒エリア全体の整備により利用者増加が見込まれるため、民間企業による整備状況等を見ながら、必要に応じて、温泉施設の機能の拡張や、住民意向等を踏まえ、子ども達の屋内遊び場機能の導入を検討します。 ⇒あわせて、あきた白神体験センターとの一体的利用も踏まえ、利用者動線を見直し、利便性やセキュリティ面の向上を図ります。 	町
産直ぶりこ （道の駅）	<ul style="list-style-type: none"> ・ハタハタ館と一体的に道の駅として活用を図ります。 ・産直ぶりこの運営団体では、ハタハタ館への委託販売についても検討が行われていることから、産直ぶりこの販売機能は、ハタハタ館へと集約することとします。 ⇒産直ぶりこに休憩・情報発信機能を集約し、ドライバー等の休憩・情報提供施設として活用を図ります。 ⇒産直ぶりこの施設は、平成17年に整備された木造平屋建て、築17年（令和4年時点）の施設であり、間もなく法定耐用年数22年を迎えることとなります。現時点においては、ハタハタ館と一体的に道の駅として活用を図るために施設の改修を基本としますが、事業スケジュール、経済性等を踏まえ、今後、必要に応じ建替え等を検討していくこととします。 ⇒産直ぶりこ内では「地物食堂どはち」が地元食材を使用した海鮮丼等を提供していることから、その提供場所を検討します。 	町

施設名（※）	連携・利活用等の方向性	主体
あきた白神体験センター （山の駅）	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、従来同様、自然体験の拠点としての活用を継続していきます。 ・冬期における宿泊ニーズに対応できる施設整備を進めます。 ⇒近年は、働き方改革などによりワーケーションなども増加していること、ハタハタ館において、少人数向けの宿泊室が少ないことなどを踏まえ、1階部分の宿泊室については、単身・少人数向けの宿泊施設としての活用を図ります。 ⇒将来的には、2階部分の宿泊室を活用し、大学生等の合宿などの受入れ等を検討していくこととします。 	県 （町）
緑地等管理中央センター （鉄道の駅）	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の料理体験や駅待合スペース等としての利用に加え、山側の総合案内設置等について、JRとの共同を検討していくこととします。 ⇒平成5年に整備された鉄骨造及び鉄筋コンクリート造、平屋建て、築29年（令和4年時点）の施設であり、大規模改修時期を迎えていることから、改修とあわせ、<u>薪ストーブ・暖炉・囲炉裏</u>などの設置など特色ある待合スペース等を検討していくこととします。 ⇒あわせて、老朽箇所や多目的トイレの設置などの改修、一般駐車場や身障者向けの駐車場の整備等を行っていきます。 	町
御所の台オートキャンプ場 （企業とのタイアップゾーン）	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、アウトドアの人気の高まっていること、本施設の利用者が増加していること、商工会で冬キャンプ体験会が開催されるなど、町内においても新たな利用への動きがみられること等を踏まえ、野球場と一体的な利用を図り、アウトドア企業等との連携によるキャンプ場、グランピング等のアウトドア系施設の導入を目指します。 	民間
野球場 （企業とのタイアップゾーン）	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、野球場の老朽化が著しいことから、<u>用途の見直し</u>を行います。 ・御所の台オートキャンプ場と一体的な利用を図り、企業等との連携によるアウトドア系施設の導入を目指します。 	民間
国道沿い森林スペース（企業とのタイアップゾーン）	<ul style="list-style-type: none"> ・時代のニーズや住民意向等を踏まえ、企業等と連携のもと、来訪者が地元の食材等を堪能できる飲食店やマルシェ、スイーツなどを販売するショップ等の導入を目指します。 ⇒カフェ・スイーツ店（事例） ⇒温泉利用後の飲食の場（ワークショップ） ⇒コンビニ（アンケート） 	民間

施設名（※）	連携・利活用等の方向性	主体										
御所の台ふれあいパーク （憩い・レクリエーションゾーン、企業タイアップゾーン）	<p>・基本的には従来どおり、町外からの利用や町民等の憩い・レクリエーションの場としての利用を継続していくとともに、観光客等が山の自然の中で癒しの時間を過ごすことができるリゾート系の宿泊施設や日常では体験できないアクティビティを体験できる場、本町で力を入れている<u>生薬栽培等を広めていく場</u>として活用を検討していくこととします。</p> <p>⇒<u>生薬栽培農家や本町と関連のある龍角散等と連携</u>による生薬栽培畑や観光客等の見学施設、研究所等の機能の導入を目指します。また、栽培施設等においては、温泉熱利用などを検討していきます。</p> <p>⇒リゾート系企業と連携し、芝生広場の斜面を活用した階段状のリゾートホテル等の導入を目指します。</p> <p>⇒冬期集客が見込めるいちご摘み取り等のメニュー開発等に取り組む若手をはじめとした農家等の支援を検討していきます。</p> <p>⇒冬期を含めイベントや体験ツアーの開催の場としての活用を促進していきます。</p> <p>⇒国道側からの当公園の視認性が悪いことから、人の目を引く植栽などを検討していきます。</p> <p>⇒観光客等が山の自然の中で、日常では体験できないアクティビティを体験できる場としての機能拡充を検討していきます。</p> <p>□憩い・レクリエーション機能拡充（案）</p> <table border="1" data-bbox="491 1339 1214 1691"> <thead> <tr> <th></th> <th>機能拡充案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芝生広場活用（一部）</td> <td>・ジップライン体験</td> </tr> <tr> <td>森林活用</td> <td>・パカブ（空中に設置された巨大な網の空中迷路）体験 ・バギー体験 ・サバイバルゲーム体験</td> </tr> <tr> <td>ハイキングルート活用</td> <td>・マウンテンバイク体験 ・クロスカントリー体験 ・トレイルラン体験</td> </tr> <tr> <td>テニスコート活用</td> <td>・スケートボードコース体験</td> </tr> </tbody> </table> <p>⇒近年、公園の管理においては、民間事業者のノウハウを活かして飲食店や売店等の設置や管理ができる公募設置管理制度（Park-PFI）が創設されています。<u>民間事業者との連携した管理</u>や AI（人工知能）や IoT（モノのインターネット）などの<u>新技術を活用した管理等</u>も視野に入れ、公園管理にかかる財政負担の軽減を検討していきます。</p>		機能拡充案	芝生広場活用（一部）	・ジップライン体験	森林活用	・パカブ（空中に設置された巨大な網の空中迷路）体験 ・バギー体験 ・サバイバルゲーム体験	ハイキングルート活用	・マウンテンバイク体験 ・クロスカントリー体験 ・トレイルラン体験	テニスコート活用	・スケートボードコース体験	民間
	機能拡充案											
芝生広場活用（一部）	・ジップライン体験											
森林活用	・パカブ（空中に設置された巨大な網の空中迷路）体験 ・バギー体験 ・サバイバルゲーム体験											
ハイキングルート活用	・マウンテンバイク体験 ・クロスカントリー体験 ・トレイルラン体験											
テニスコート活用	・スケートボードコース体験											

施設名（※）	連携・利活用等の方向性	主体
自由通路	<ul style="list-style-type: none"> 御所の台ふれあいパーク、あきた白神駅等を結ぶ通路として、<u>エレベーターの設置等バリアフリーの強化</u>を図り、より利用しやすい通路としていきます。 	町
既存駐車場	<ul style="list-style-type: none"> 国道からの車動線を明確にするため、駐車場の出入口は、既存出入口を活用し、入口と出口の2箇所とします。ただし、既存駐車場と隣接する国道沿い森林部分は、企業タイアップゾーンとして位置づけていることから、企業等が進める事業等を踏まえ、出入口について、随時、見直し等を行うこととします。 歩道等を整備し、歩行者の安全を確保するとともに、車動線と交差する部分には横断歩道等を設けていきます。 雨・強風等への対策として、歩道についてはシェルターの設置や風よけのための植栽等を配置していきます。 	町
全体	<ul style="list-style-type: none"> 主要な動線においては、段差の解消、EV設置等によりバリアフリーとしています。 エリア内においては、多言語型の案内板・誘導サイン等を整備していきます。 エリア内施設においては、本町の脱炭素の実現に向け、洋上風力発電事業者との連携のもと洋上風力で発電された電力等の利用を進めていきます。 サイクルステーションについては、企業タイアップゾーンに進出してくる企業等と連携し、エリア内の設置個所を増やしていきます。 	町

※（ ）内は将来像における位置づけ

5-3 必要な取り組み

基本方針、道の駅導入機能、既存施設等の方向性等を踏まえ、関係団体や地元等、今後必要となる取り組みについて整理します。

5-3-1 新たな観光プラン・商品開発等に向けた地元等との連携強化

(1) 地域の魅力を活かした新たな観光プラン等の開発

本エリアへの観光客等の来訪を促進していくため、特に冬期における地域のマイナス部分をあえて活かした観光プランや、地域の資源等を磨き上げストーリー性や目的を明確化した観光プラン等を、関係団体等と連携し開発していきます。

- ・来訪者等が旅行計画を立てやすくするため、目的別、滞在時間別（1日コース、半日コース等）、JR五能線利用者（マイカー利用なし）向けなどに分け、「モデルコース」づくりに取り組みます。
- ・自然体験のプラン等の利用者を増やしていくため、関係団体等と連携し、ガイド等の育成に取り組みます。

□宿泊プランのイメージ

区分	宿泊プラン案	主なターゲット等	主な関連団体等
自然体験関係	○親子で気軽に自然体験ができるプラン ⇒ハイキングや磯遊びなどの自然体験ができるプラン	ファミリー	あきた白神体験センター(ガイド)、ハタハタ館(宿泊)
	○手ぶらでキャンプ・バーベキュープラン ⇒食材やキャンプ用品のレンタルが付いたプラン	アウトドア派	商工会、アウトドア関連企業(用具レンタル)、道の駅(食材提供)、ハタハタ館(ギブアップ時の宿泊)
	○冬キャンプ体験プラン ⇒寒さへのギブアップにも対応したプラン		
	○海釣り・ハタハタ漁体験プラン ⇒八森漁港からつり船等に乗ってつり・漁を体験するプラン		漁業関係者(釣り船)、ハタハタ館(宿泊)
	○白神山地登山体験プラン ⇒登山前後の休憩・宿泊の場として、本エリアを組み込んだプラン		旅行会社、観光協会、ハタハタ館(宿泊・休憩)

区分	宿泊プラン案	主なターゲット等	主な関連団体等
健康増進 関係	○ハタハタ館の温泉とあわせ、食を堪能するプラン ⇒地元の農産物等を利用した美食（ハタハタ、タラ鍋等）を提供するプラン等 ⇒キキョウやカミツレなどを活かした薬膳料理を提供するプラン等	高齢者、健康志向派	地元食材提供者、ハタハタ館（宿泊）
	○親子ダイエット体験プラン ⇒週末等に利用できるハイキング、磯遊びなど自然体験を取り入れた子ども達の健康増進プラン	ファミリー	あきた白神体験センター(ガイド)、町（福祉保健課）、スポーツ関連団体
イベント・企画 関係	○手ぶらでお花見プラン ⇒お花見弁当等が付いたプラン ○季節限定のプラン ⇒冬：地吹雪・雪下ろし体験プラン等 ⇒春・秋：山菜とり体験プラン ○洋上風力発電施設見学プラン ⇒風力発電事業者と連携し、洋上に整備された風力発電設備を見学するプラン	すべて	観光協会、あきた白神体験センター(ガイド)、ハタハタ館（宿泊・飲食）、風力発電事業者、漁業関係者（海上輸送）、バス・鉄道事業者（陸上輸送）
	○秘境・パワースポット体験プラン ⇒町内のパワースポットを巡るプラン（ブナ林（ブロッコリーのように見える森）、手這坂（菅江真澄が桃源郷と称した集落）、真瀬溪谷三十釜、白瀑、お殿水等）	若者	
	○JR 五能線利用者向けプラン ⇒JR 五能線、バス、自転車利用などのチケット付きプラン	車を運転しない人（免許返納者、外国人旅行者、若者等）	
ビジネス・団体 関係	○気軽にワーケーションできる長期滞在型のプラン ○素泊まりなど、ビジネス利用を想定した低価格で宿泊できるプラン ○学生等が合宿で利用できる長期滞在型のお手頃プラン	ビジネス・合宿利用	ハタハタ館（宿泊）、あきた白神体験センター（宿泊）

(2) 地域の魅力をPRする商品等の開発

イベント等における本エリアのPRやオンラインを利用した販路拡大を進めていくため、地域の魅力をPRする商品開発に取り組みます。

- ・ハタハタなど既に開発が進められている商品等については、試食会等を開催し、その商品の改良等を進め、付加価値を高めていきます。
- ・近年の情報拡散などの動向を踏まえ、地場産品等を利用し、インスタ映えや話題性の高い商品などの開発に取り組んでいきます。

視点	考え方
インスタ映え	○見た目の美しさ、大きさ（量）等の工夫
話題性	○全国的なイベント等へ出品しやすい商品開発 ⇒B級グルメ、駅弁、ソウルフード（郷土料理）、薬膳スイーツ等
ブランド力	○商品の魅力やこだわり、地域の良さを引き出す ⇒店員が来訪者へ丁寧に説明できる ⇒ここでしか買えない希少価値（オーダーメイドの薬膳料理等）

- ・若者の意見、トレンド等を取り入れていくため、大学・企業等と連携した商品開発に取り組んでいきます。

(3) 地域の魅力を活かしたイベントの開催

関係団体等と連携し、季節ごとのイベントや協定締結先等と連携したイベントの開催等に取り組み、本エリアの観光客等の増加に取り組めます。

- ・季節ごとのイベント開催
- ・協定締結先等と連携したイベント開催
⇒本町と「再生可能エネルギーの活用を通じた連携協定」を結んでいる横浜市や洋上風力発電事業者と連携したイベント開催（横浜市民の環境学習体験：洋上風力発電見学、森林保護等の自然体験等）
⇒株式会社龍角散と連携した、生薬栽培地の見学体験
⇒「八峰町サーモン養殖事業に関する四者協定」締結先と連携したイベント開催（養殖場見学、養殖サーモン試食等）
- ・各施設での企画イベント

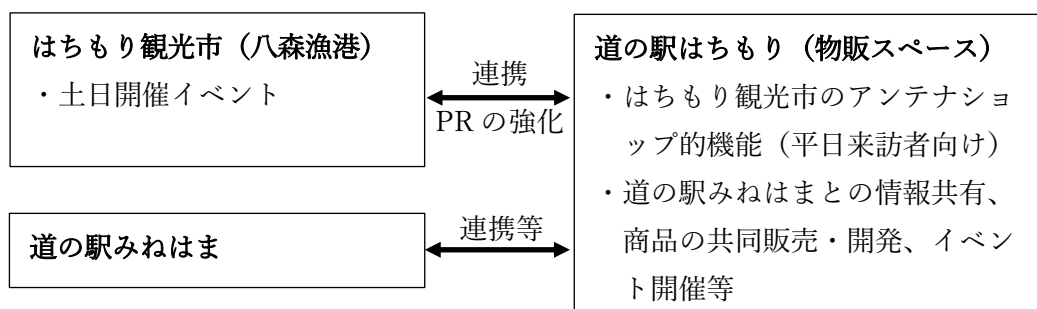
(4) 既存施設等での連携強化等

① ハタハタ館とあきた白神体験センターとの調整・連携強化

- ・現在、ハタハタ館とあきた白神体験センターは、食事や入浴面での連携を図っています。
- ・ハタハタ館とあきた白神体験センターは、屋根付きの連絡通路で結ばれていますが、くつの履き替えが必要な現状があることから、改修等を行う際は、秋田県及び両者で協議を行い、利用環境の改善に取り組みます。
- ・現在、あきた白神体験センターの宿泊者の入浴は、ハタハタ館の温泉を利用していますが、利用時間は、日帰り客と同じ時間帯に限定されています。今後、あきた白神体験センター宿泊者の温泉利用環境をハタハタ館宿泊者と同等に改善するため、両者で協議・調整を行います。
- ・冬期の宿泊については、施設の有効活用を図るとともに、ハタハタ館も同じ宿泊機能をもつことから、両者間でターゲットの棲み分け等を行い、両者連携のもと宿泊機能の向上に取り組みます。

② 「道の駅はちもり」と「はちもり観光市（八森漁港）」「道の駅みねはま」との連携体制の構築

- ・地元の新鮮な魚介類等のPRを強化していくため、毎週土日に開催されている「はちもり観光市」と「道の駅はちもり」との連携体制を構築していきます。
- ・情報共有や商品の共同販売・開発、イベント開催等で相乗効果を発揮し、地域活性化につなげるために、「道の駅みねはま」と「道の駅はちもり」が連携体制を構築していきます。



③ お殿水等の周辺観光施設との連携体制の構築

- ・本エリアを核として周辺観光施設と連携を図ることで、本町の回遊性を高め、観光客等の滞在時間の延伸等に取り組みます。

④ 特産品の生産者等との連携の強化

- ・令和5年3月に「おらほの館」（道の駅みねはまの産直）の規約が改正され、これまで、町内2つの産直施設（「おらほの館」「産直ぶりこ」）へ、農水産物等を出荷することができなかったルールがなくなりました。両施設への出荷が可能になったことを踏まえ、今後は、おらほの館に出荷している意欲ある生産者等との連携を図り、道の駅はちもりの産直機能の充実を図ります。

⑤ 鉄道事業者（JR 五能線）との連携体制の構築

- ・ローカル線として人気の高いJR 五能線については、鉄道事業者と連携し、列車内での開発商品の販売や鉄道事業者が実施する企画への積極的な参加・協力、東能代駅などで企画されている停車時間を通常より長くとることにより体験できる企画等の開発に取り組みます。

(5) 地域の魅力等を引き出す企業等との連携

本エリアの魅力を向上させていく上では、本エリアのもつポテンシャルを引き出す企業等と連携した取り組みが効果的です。

具体的には、民間のもつノウハウ・資金により、新たな視点での地域資源の活用が期待できるほか、地元の新たな雇用創出にもつながります。

本エリアのポテンシャルを引き出す企業等とのタイアップゾーンについては、意欲ある地元事業者や金融機関、県内外の企業に対して誘致活動を実施し、企業との連携体制づくりに積極的に取り組んでいきます。

そのため、企業誘致活動の第一歩として、本エリアや本町の情報を広く発信し、誘致につながる情報収集に取り組んでいきます。

また、既存施設と類似する機能をもつ民間施設が整備される場合等においては、相互連携のもとターゲットの棲み分け等を行っていきます。

□自治体等と連携した企業の取り組み例

区分	企業名	主な取り組み
アウトドア 関連	株式会社 モンベル	アウトドアを基軸とし、自治体等と包括連携協定を締結（令和5年2月9日現在122箇所と締結）
	株式会社 スノーピーク	2021年9月15日、新潟県との観光振興および地域活性化に関する包括連携協定 2019年1月に白馬村と包括連携協定を締結。同年7月、スノーピークの最高峰グランピングブランド「FIELD SUITE」を冠したグランピング施設として北尾根高原に開業
リゾート開 発関連	株式会社 星野リゾート	2022年4月30日に、山口県下関市と「地域活性化に関する連携協定書」を締結（2025年秋、リゾナーレ下関（仮称）開業予定） 2019年8月15日、奈良県明日香村と地域活性化包括連携協定を締結（2023年、宿泊施設開業予定）
	ヴィソン多気株 式会社	2021年7月20日に、日本航空株式会社と三重広域連携スーパーシティ構想自治体である多気町、大台町、明和町、度会町、大紀町、紀北町の6町と連携協定を締結し、持続可能な地域づくりとスーパーシティ構想の考えに基づく地域活性化をめざした活動を推進
生薬栽培	株式会社 龍角散	国産の優良生薬の安定供給実現化と、休耕田など遊休資産の活性化と有効活用を目指し、秋田県美郷町や八峰町で国産生薬の栽培を推進
公園の運営 管理（Park- PFI）	大日本C（代表 法人）・アメリ ス・内藤H・東 京北区観光協会 グループ	2023年3月、東京都北区の区立公園「飛鳥山公園内」に、Park-PFI（公募設置管理制度）を活用し、「shibusawa hat（シブサワハット）れすとらん館」を開業
	株式会社あおい	2023年1月、福島県須賀川市の総合公園である翠ヶ丘公園内に、Park-PFI（公募設置管理制度）を活用し、「Jadegreen cafe（ジェードグリーンカフェ）」をオープン

5-3-2 デジタル技術を活用したコンテンツの開発

(1) 本エリア全体を紹介するホームページ、SNS の開設

これまでの、施設ごとに開設されていたホームページを統合し、本エリア全体を紹介する新たなホームページ・SNS を開設し、情報提供の充実や予約等の一元化に取り組みます。

- ・ 誰もが見やすく、利用しやすいホームページ等を開設するとともに、インスタ映えする写真、動画などを用い、「行ってみたい」と思うような情報提供に取り組んでいきます。
- ・ 宿泊・施設利用予約や体験ツアーの予約等についても、新たなホームページから予約できるようにしていきます。
- ・ 来訪者の口コミ等をホームページで掲載するなど、信頼性をアップさせる情報提供を進めていきます。

(2) オンラインを利用した新たな販路の開発

本エリア来訪者等の再購入や本エリアの PR 等で情報を得た者が、気軽に本エリアの商品等を入手できるようにしていくため、オンラインを利用した新たな販路の開発に取り組みます。

- ・ 新たなホームページへオンラインショップ機能を設け、新たな販路拡大に取り組みます。
- ・ 大手通販ネットショップへの出品など、オンラインを利用し、より商品等を入手しやすい環境づくりへ取り組みます。

(3) 県外イベント・マスメディアを活用した PR

近年は、情報通信技術の発展に伴いインターネットを通じた情報提供が一般化されつつありますが、インターネット利用に不慣れな人への情報提供や話題性を拡散させていくためには、県や企業が開催している県外イベントへの参加やマスメディア（テレビ、新聞雑誌等）での PR も重要となります。

今後は、県や百貨店等で企画されている地域特産品の販売イベント等への参加、マスメディアの取材受入れやアプローチの強化など、積極的な PR 活動に取り組んでいきます。

□県外イベント等の主な開催状況（2022年）

主催	イベント名	開催場所等
京浜急行電鉄(株)、 JA あきた等	京急あきたフェア（2022年 で14回目の開催）	神奈川県川崎市 京急川崎駅など
イオン(株)	秋田フェア	秋田県と締結している「連携と 協力に関する包括協定」に基づ き、各地のイオンやマックスバ リュ等で、秋田フェアを開催
県	秋田県物産フェア	北東北3県、フランス・パリ
	あきたのお楽しみWEEK inハチふる	東京都渋谷区 渋谷スクランブルスクエア
	秋田のうまいもの！	大阪府大阪市北区 阪急百貨店うめだ本店
	秋田県のうまいものめぐり	東京都中央区：高島屋日本橋店
	東北六県 味と技めぐり	大阪府大阪市阿倍野区 近鉄百貨店あべのハルカス本店
	JR 大宮駅「あきたフェア」	埼玉県さいたま市大宮区 JR 大宮駅構内西口 イベントス ペース

5-3-3 ネットワーク軸の創出

大間越街道は、江戸時代から秋田藩領と津軽藩領を結ぶ日本海側の重要な街道として利用されてきた歴史をもちます。

「海の駅（八森漁港）」と「道の駅はちもり」等を結び、海への眺望も良いルートであることから、歩道や自転車道などの道路環境の整備を推進していきます。

あわせて、地域住民等と連携した沿道緑化に取り組み、本エリアのネットワーク軸としての環境整備に取り組みます。

5-3-4 インスタ映えするスポットの創出

御所の台エリアの魅力を拡散していくため、地域資源等を活用したインスタ映えする撮影スポットの創出に取り組みます。

□撮影スポット創出（案）

地域資源等		撮影スポットイメージ	備考
自然	海	○「波の花」撮影スポットの創出 冬期に発生する「波の花」を撮影できる場所を抽出し、安全性確保などの撮影環境を整備	
	風	○「強風」撮影スポットの創出 風通し、眺望の良い場所を抽出し、冬期に発生する強風が見える化（風速計、吹き流し、風鈴等の設置）した撮影環境を整備 ○洋上風力発電事業者と連携した風のモニュメント等の撮影スポットの創出 風力発電事業者と連携し、風つながりのモニュメント等を整備（リタイアした風力発電設備の羽部分を活用した屋外ファニーチャー・遊具等）	
	里山	○トレッキングルート沿いの撮影スポットの創出 既存の「いやしの鐘」「ちょうせんの鐘」を活用し、インスタ映えする撮影スポットとして環境を整備	
JR 五能線		○「JR 五能線」撮影スポット創出・周知 既存の連絡通路の撮影スポットを活かした改修等を実施。リニューアルとあわせ PR 御所の台ふれあいパークの線路沿いの植栽の再整備とあわせ、JR 五能線と季節の花等が共に撮影できるスポットを創出	

5-3-5 インバウンド回復に向けた取り組み

(1) 訪日外国人旅行者の誘客へ向けた PR

訪日外国人の誘客を促進していくため、観光協会や地域連携 DMO、県等と協力・連携し、インバウンド動画の作成や海外での誘客活動を促進し、本エリアの PR に取り組みます。

(2) 訪日外国人旅行者向けの観光プランの開発

日本の本質深く体験できる自然、食等の本エリアの地域資源を活かし、訪日外国人向けの体験型観光プランの開発に取り組み、訪日外国人旅行者の満足度向上や滞在時間の延長を目指します。

(3) 訪日外国人の受入れ環境の整備

外国人目線に立った多言語対応を強化・改善するため、ICT も活用しつつ多言語による案内表示等の充実、通訳ガイドの育成、日本政府観光局認定を取得した外国人観光案内所の設置等に取り組みます。

訪日外国人旅行者が来訪する際にインターネットによる情報入手に不自由を感じることがないように、携帯電話の通じない地域の解消等、通信環境の整備に取り組みます。

特産品等の販売を行う道の駅等については、外国人観光客の消費拡大を図っていくため、免税店への許可申請やキャッシュレス決済ができる環境づくり等に取り組みます。

第6章 御所の台エリア整備構想

6-1 道の駅導入施設の規模設定

上記 5-1 で設定した主要な導入施設について、規模を設定します。

6-1-1 駐車場

現在（移転前）の「道の駅はちもり」や道の駅移転後に道の駅と一体的利用が考えられる「既存施設」の駐車整備状況、道の駅の本来の休憩機能として必要となる駐車台数を踏まえ、総合的に駐車場規模を設定します。

(1) 既存施設の駐車場整備状況

現在（移転前）の道の駅はちもりには、計 35 台の駐車場が整備されています。

道の駅移転後に、道の駅と一体的利用が考えられるハタハタ館、あきた白神体験センター等の既存施設の駐車場整備状況は、計 218 台です。

		駐車場台数				備考
		小型車	大型車	身障者用	計	
既存施設	あきた白神体験センター前 (国道 101 号側)	34	中型 4	2	40	配置図より
	ハタハタ館前 (国道 101 号側)	18	0	2	20	Google マップより
	ハタハタ館西側スペース	153	5	0	158	Google マップより
	御所の台ふれあいパーク(線路北側)	0	0	0	0	
	計	207	8	4	218	
道の駅はちもり(移転前)		30	5	0	35	道の駅申請資料

(2) 道の駅の本来の休憩機能として必要となる駐車台数

交通量から道の駅の本来の休憩機能として、ドライバー等の休憩に必要となる駐車台数を算定します。

算定方法は、道の駅と類似する高速道路のパーキングエリアの駐車場規模設定方法を用い、「東日本高速道路株式会社 設計要領」を基に行うこととします。

道の駅の本来の休憩機能として必要となる自動車の駐車台数は計 7 台（小型車 4 台、バス 1 台、大型貨物 1 台、身障者用 1 台）、自動二輪車は計 4 台となります。

□一般駐車マス数（係数は「パーキングエリア：ハイウェイショップ有」を採用）

項目		対象路線			備考
		国道 101 号			
車種		小型車	バス	大型貨物	H27 センサス(区間番号 5301010010)
前面道路の 交通量	車種別	930	11	132	
	合計	1073			
大型車混入率 (%)		13%			
大型バスの割合 (%)		1.0%			
駐車マス 計算の 条件	サービス係数	1.4			
	立ち寄り率	0.1	0.1	0.125	
	ラッシュ率	0.1	0.25	0.1	
	平均駐車時間 (分)	15	15	20	
	回転率	4	4	3	
駐車マス数	車種別	4	1	1	
	合計	6			

出典：「東日本高速道路株式会社 設計要領」を基に算定

□障がい者用駐車マス数

駐車マスの区分	障がい者用駐車マス数算定式	障がい者用 駐車マス数 (台)	備考
全小型車 駐車マス数 \leq 200	全小型車マス数 \times 1/50 以上	1	全小型車駐車 マス 4

出典：「東日本高速道路株式会社 設計要領」を基に算定

□自動二輪車

区分	計画交通量(台/日)	駐車台数 (台)
SA	30,000 台以上	8
	30,000 台未満	4
PA	全箇所	4

出典：「東日本高速道路株式会社 設計要領」を基に算定

(3) 道の駅等の駐車場規模

道の駅の駐車場規模については、移転する道の駅と一体的に利用される既存施設等の駐車場利用等も踏まえ、総合的な視点から規模を想定します。

① 道の駅の駐車場規模

道の駅として地域連携機能ともなる既存施設（白神体験センター、ハタハタ館等）は、既に駐車場が確保されていることから、移転する道の駅には、道の駅の本来的な休憩機能として必要となる台数を確保することとします。

新たに確保する駐車台数は、上記(2)より、自動車 計7台（小型車4台、大型車2台（バス1、大型貨物1）、身障者用1台）、自動二輪車 計4台となります。

② 御所の台ふれあいパーク(線路北側)の駐車場規模

現在、御所の台ふれあいパークには駐車場がなく、ハタハタ館西側スペースの駐車場を利用している現状がありますが、公園やJR五能線利用者等の利便性向上を図るため、日常的に利用できる駐車場を整備することとします。

ただし、御所の台ふれあいパークは、企業等と連携したリゾートホテルや生薬栽培体験などの新たな活用を目指していることから、企業等が進める事業等を踏まえ、随時、駐車場規模等について、見直すこととします。

現時点においては、以下の駐車場規模を想定します。

新型コロナウイルス感染症の影響前の令和元年度の御所の台ふれあいパーク(4,991人)及び緑地等管理中央センター(2,331人)の利用者数(計7,322人)を基に、一般利用(小型車)の駐車場規模を7台とします。団体利用・イベント開催時については、ハタハタ館西側スペースの大型駐車場の利用を想定します。

上記に加え、身障者用として2台確保することとします。

□利用者数を基に算定した駐車場規模

		数値	備考
令和元年御所の台ふれあいパーク及び緑地等管理中央センター利用者数(人)	①	7,322	
年間の日数(日)	②	365	
1日当たり利用者数(人/日)	③=①/②	21	
1台当たりの乗車人数(人/台)	④	3	想定値
1日の車利用台数(台/日)	⑤=③/④	7	
回転率(回転)	⑥	1	トレッキング等の利用を踏まえ終日利用を想定
必要となる駐車台数(台/日)	⑦=⑤/⑥	7	

参考 駐車場規模 総括

		自動車 駐車場台数(台)				自動車 二輪車駐 車場台数(台)	備考
		小型車	大型車	身障者用	計		
既存地域 振興施設	あきた白神体験センター前 (国道101号側)	34	中型4	2	40	—	現状規模
	ハタハタ館前 (国道101号側)	18	—	2	20	—	現状規模
	ハタハタ館西側スペース	153	5	0	158		現状規模
	御所の台ふれあいパーク (線路北側)	7	0	2	9		新規
	計	214	8	6	227		
	道の駅はちもり(移転後)	4	2	1	7	4	新規
	計	218	10	7	235	4	

6-1-2 道の駅屋内施設

(1) トイレ規模

現在（移転前）の「道の駅はちもり」や一般利用ができる「既存施設」トイレ整備状況、道の駅の本래の休憩機能として必要となるトイレ規模を踏まえ、総合的に道の駅のトイレ規模を設定します。

① 既存施設のトイレ整備状況

現在（移転前）の道の駅はちもりには、計10基のトイレが整備されています。

道の駅はちもり移転後に、道の駅と一体的利用が考えられ、一般利用ができる既存施設のトイレは、計26基（ハタハタ館1階、産直ぶりこ、オートキャンプ場前屋外トイレ）整備されています。

□既存施設のトイレ整備状況

		男子			女子		多目的 トイレ	備考
		大便器	小便器	洗面器	便器	洗面器		
既存施設 の トイレ が 利用 が でき る	ハタハタ館 1F	3	5	2	8	4	1	パウダールーム無
	産直ぶりこ	1	—	1	1	1	1	パウダールーム無
	オートキャンプ 場前屋外トイレ	3	2	1	3	2	—	24時間利用可 女子トイレ内に子 供用小便器有
	計	7	7	4	12	7	2	
道の駅はちもり(移転前)		2	3	3	4	3	1	

② 道の駅の本래の休憩機能として必要となるトイレ規模

交通量から算出した駐車マス数を用い、「東日本高速道路株式会社 設計要領」を基に算定（係数は「パーキングエリア：ハイウェイショップ有」を採用）します。

算定したトイレ規模は、「東日本高速道路株式会社 設計要領」で示されている最小数を下回っているものもあることから、休憩機能として必要となるトイレ規模は、最小数を考慮した規模を確保（着色部分）する必要があります。

□道の駅として必要となるトイレの規模

		交通量（駐車マス数）から算出	最小数※	備考
男子	小便器	2	3	最小数を採用
	大便器	2	2	
	洗面器	2	2	
女子	大便器	4	5	最小数を採用
	洗面器	1	2	最小数を採用
	パウダーコーナー	1	—	
多目的トイレ		1	1	

※「東日本高速道路株式会社 設計要領」で示されている最小数

□交通量（駐車マス数）から算定したトイレ規模の算定

項目		記号	対象路線 国道 101 号			備考
車種			小型車	バス	大型貨物	
駐車マス	車種別	P	4.0	1.0	1.0	
回転率（回/h）		r	4	4	3	
車種別駐車台数（台/h）		$P_a = P * r$	16	4	3	
平均乗車人数（人）		W	1.7	21	1.1	
立寄り人員（人/h）		$N = P_a * W$	27	84	3	
立寄り人数合計（人/h）		ΣN	115			
利用率		u	0.74			
トイレ利用人数（人/h）		$NL = u * N$	85			
性別比率	男	D_m	0.59			
	女	D_f	0.41			
ピーク率	男	P_m	2.6			
	女	P_f	3.7			
性別利用人数 （人/h）	男	$NL_m = NL * D_m * P_m$	130			
	女	$NL_f = NL * D_f * P_f$	129			
便器回転率（人/h）	男	C_m	95			
	女	C_f	40			
洋式便器設置率	男	W_m	0.9			
	女	W_f	0.9			
便器数	男	小	$V_{m1} = 0.8NL_m / C_m$	2		最小数：3
		大(洋)	$V_{m2}(\text{洋}) = 0.6V_{m1} * W_m$	1		最小数：1
		大(和)	$V_{m2}(\text{和}) = 0.6V_{m1} - V_{m2}(\text{洋})$	1		最小数：1
	女	(洋)	$V_f(\text{洋}) = NL_f / C_f * W_f$	3		最小数：4
		(和)	$V_f(\text{和}) = NL_f / C_f - V_f(\text{洋})$	1		最小数：1
洗面器回転率 （人/h）	男	S_m	360			
	女	S_f	215			
洗面基数	男	$V_{S_m} = NL_m / S_m$	2		最小数：2	
	女	$V_{S_f} = NL_f / S_f$	1		最小数：2	
パウダーコーナー		$V_p = 0.3 * V_f$	1			
多目的トイレ数		$V_h = (V_{m2} + V_f) / 50$	1		最小数：1	

③ 道の駅のトイレ規模

移転する道の駅はちもりに整備するトイレ規模については、上記①②を踏まえ、総合的な視点から規模を想定します。

道の駅として地域連携機能ともなる既存施設（白神体験センター、ハタハタ館等）は、既にトイレが整備されていることから、移転する道の駅には、道の駅の本来的休憩機能として必要となるトイレ規模をプラスすることとします。

1) 一般用の便器数・洗面器

一般用の便器数・洗面器については、上記②より、便器 計 13 基（男子：小便器 3、大便器 4、女子：大便器 5、多目的トイレ）、洗面器 計 4 箇所（男子 2、女子 2）を確保します。

2) パウダールーム

パウダールームについては、上記②において 1 箇所と算定されますが、既存施設のトイレにパウダールームがついていないこと、御所の台エリアにおいて自然体験やキャンプ場の利用者が多いこと等を踏まえ、洗面における利用環境の向上を図るため規模を拡大し、4 箇所（女子洗面器数の 2 倍）を確保することとします。

3) 子どもコーナー（子ども専用トイレ）、ベビーコーナー

現在、一般開放されている既存トイレには、子ども専用のトイレが少ない現状を踏まえ、子ども利用に対する機能を拡充していくため、子どもコーナー（子ども専用トイレ）とベビーコーナー（おむつ台、授乳スペース）を、男女のトイレに、それぞれ 1 箇所確保することとします。

□移転する道の駅のトイレ規模

		規模	備考
男子	小便器	3 基	最小数※を採用
	大便器	4 基	
	洗面器	2 箇所	
	子どもコーナー（子ども専用トイレ）	1 箇所	
	ベビーコーナー（おむつ台、授乳スペース）	1 箇所	
女子	大便器	5 基	最小数※を採用
	洗面器	2 箇所	最小数※を採用
	パウダーコーナー	4 箇所	洗面における利用環境の向上を図るため規模を拡大
	子どもコーナー（子ども専用トイレ）	1 箇所	
	ベビーコーナー（おむつ台、授乳スペース）	1 箇所	
多目的トイレ		1 箇所	

※「東日本高速道路株式会社 設計要領」で示されている最小数

(2) 道の駅休憩・情報発信コーナー

道の駅の休憩・情報発信コーナーは、道の駅の本来の休憩機能として必要となる規模とし、「東日本高速道路株式会社 設計要領」に基づき、駐車台数に対応した規模を算定します。

算定に用いる駐車台数は、上記 6-1-1 (3) ①より計7台となることから、規模は140 m²程度とします。

休憩・情報発信コーナーの構成は、情報発信及び休憩スペースのほか、インフォメーション（事務室）、シャワー室（男女各1）とします。

駐車台数（台）	席数	標準的な面積（m ² ）
300	80	250
250	60	210
200	60	210
150	40	170
100 台以下	30	140

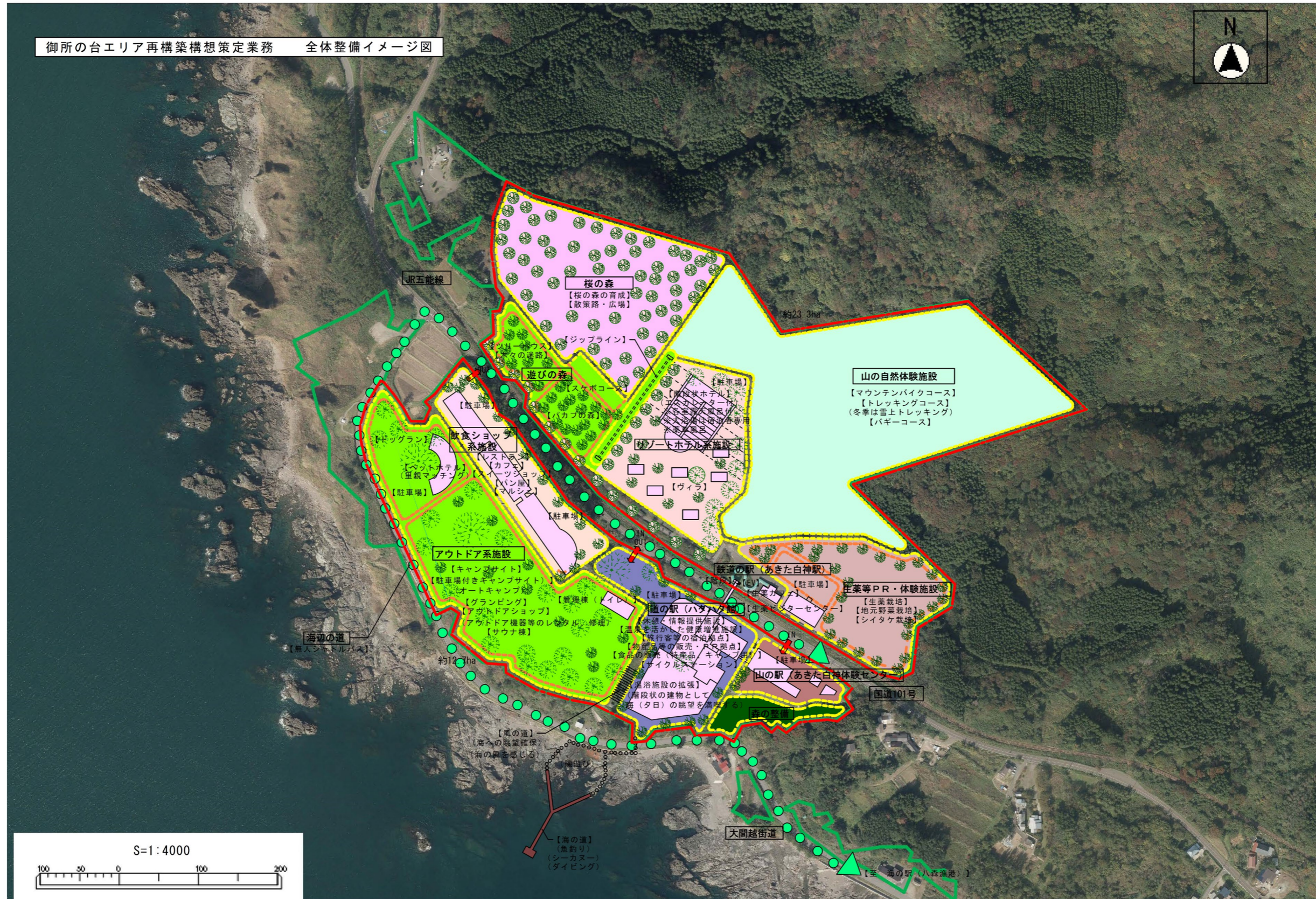
出典：東日本高速道路株式会社 設計要領

(3) 道の駅特産品等販売コーナー

産直ぶりこについては、ヒアリングにおいて、ハタハタ館への委託販売が検討されていること、「はちもり観光市」との連携及び道の駅への農産物等の搬入体制の見直し等も視野に入れ、既存のハタハタ館の売店スペース（約 215 m²）に特産品等の販売機能を集約し、配置します。

	規模（m ² ）	備考
ハタハタ館売店スペース	約 215 m ²	図上計測（談話・休憩スペースを含む）

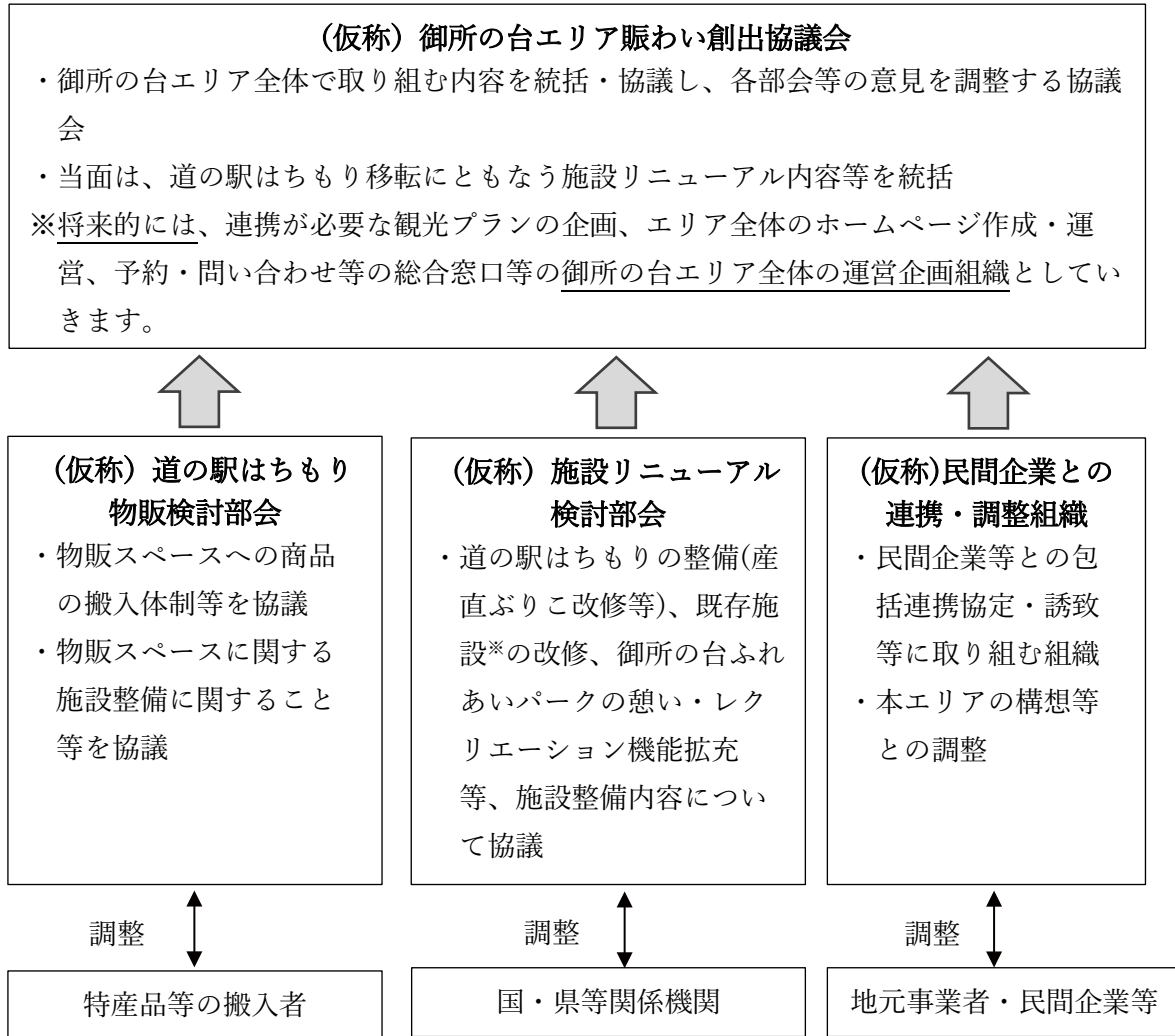
6-2 整備イメージ図



第7章 事業推進体制（案）

基本理念、将来像、基本方針を実現していくためには、関係団体や地元等との連携した事業推進体制を構築していく必要があります。

ここでは、現時点で考えられる事業推進体制のイメージを示します。



※ハタハタ館、あきた白神体験センター、連絡通路、緑地等管理中央センター等

□協議会等の主な構成

組織	主な構成メンバー
（仮称）御所の台エリア賑わい創出協議会	町（関係各課）、各部会の代表者、商工会、観光協会、地域連携DMO、包括連携協定締結企業等から構成
（仮称）道の駅はちもり物販検討部会	町（関係課）、道の駅はちもり・ハタハタ館・産直ぶりこ・はちもり観光市・道の駅みねはま・地物食堂どはちの運営組織、商工会、観光協会等
（仮称）施設リニューアル検討部会	町（関係課）、道の駅はちもり・ハタハタ館・産直ぶりこの運営組織、あきた白神体験センター、緑地等管理中央センター等
（仮称）民間企業との連携調整組織	町（関係課）、県（関係課）、商工会、観光協会、洋上風力発電事業者等

第8章 事業スケジュール

本構想では、町が主体となり整備する施設と民間等が主体となり整備する施設があります。民間等主体の整備施設については、企業誘致等を含め、今後検討を進めていきます。

本構想においては、町主体の整備施設（「P.64「5-2 既存施設等の方向性」において主体項目に「町」と示す）の事業スケジュールを示します。

事業スケジュールについては、再構築構想の策定を踏まえ、今後、ハタハタ館や産直ぶりこ等の関係団体や国・県等との協議を行い、測量調査及び設計業務完了後、建設工事に着手していきます。

■事業スケジュール

項目	1年度目	2年度目	3年度目	4年度目
再構築構想の策定（令和5年6月）				
関係機関等との協議	→			
測量調査	→			
基本設計・実施設計	→ 発注準備	→ 設計	→ 積算	
確認申請		→		
仮設店舗設置 （必要な場合）		→ 仮設申請・確認申請		
整備・改修工事			→ 発注準備 工事	
開業準備			→	
リニューアルオープン				→
協議会・部会	→ 道の駅の整備検討	→ 本エリアの取り組み内容等		
運営企画組織				→ エリア全体の運営・企画